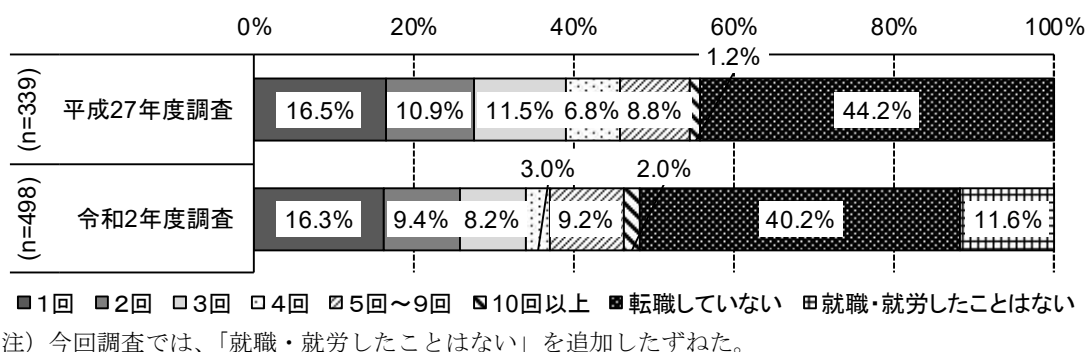


前回調査と比較すると、「転職していない」割合は、44.2%から40.2%と4.0ポイント減少している。なお、今回調査では、「就職・就労したことはない（11.6%）」を新たに追加している。

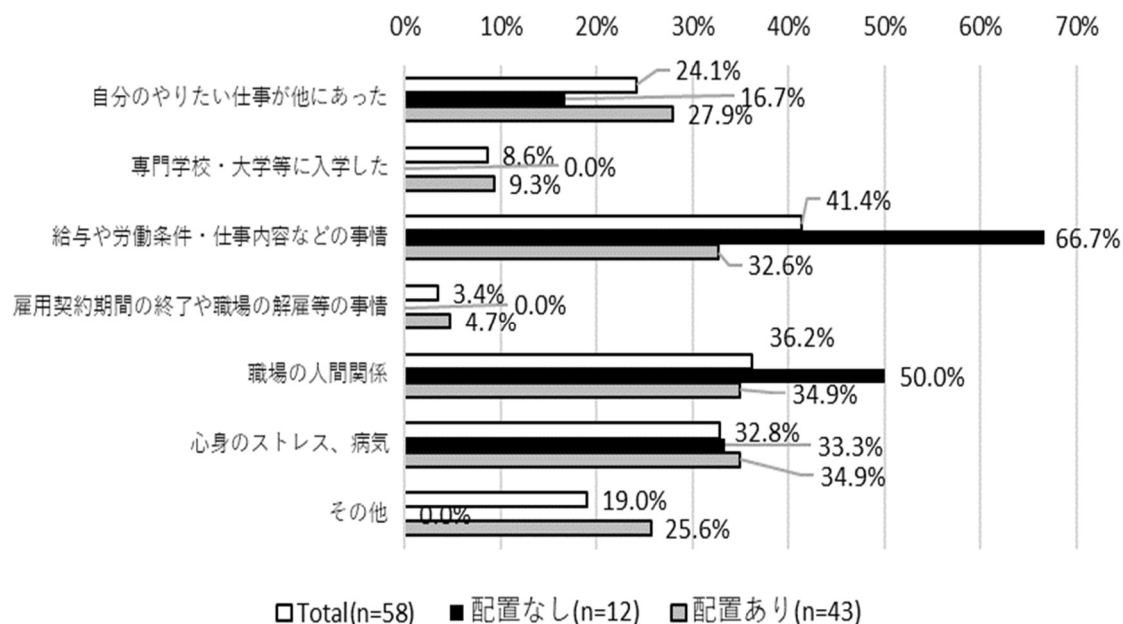
図表 66 転職回数・経験の状況（前回調査との比較）



2) 転職した理由

転職回数について、「1回」以上を回答した人にたずねたところ、「給与や労働条件・仕事内容などの事情」の割合が最も高く41.8%となっている。次いで、「職場の人間関係（36.7%）」、「心身のストレス、病気（32.9%）」となっている。

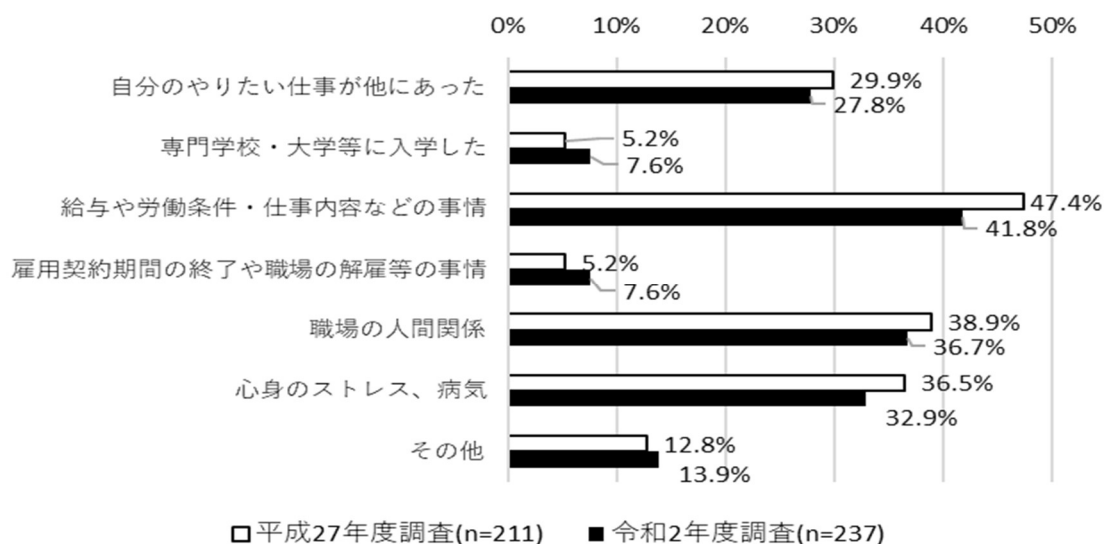
図表 67 転職した理由（転職回数が1回以上の人）（複数回答）



(注) 「その他」として、「結婚・出産・育児」、「引っ越し」、「コロナ禍」、「他の仕事も経験してみたかった」、「家族の事情」などが挙げられた。

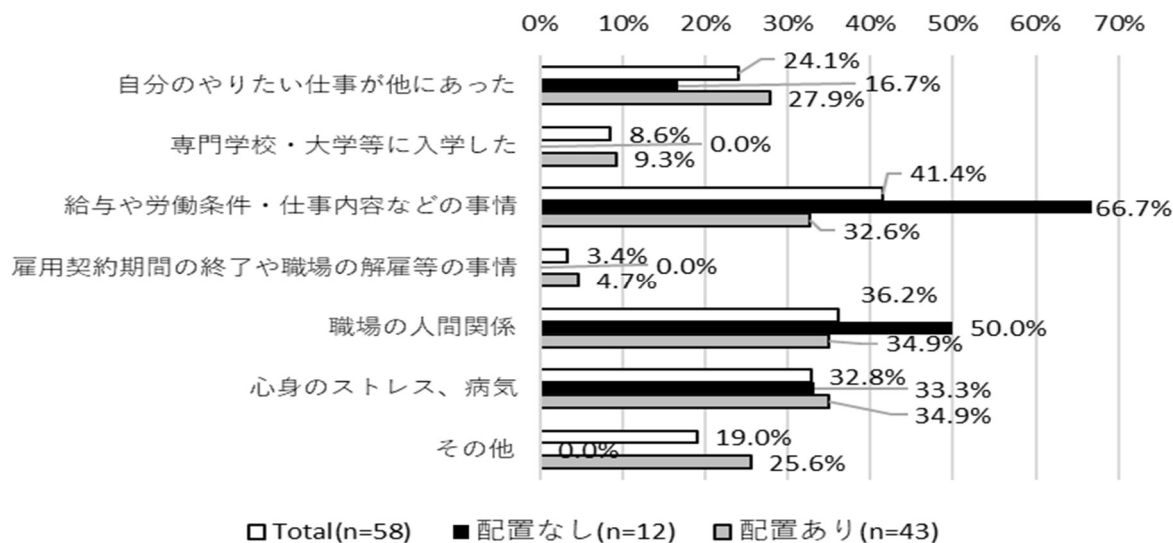
前回調査と比較すると、「給与や労働条件・仕事内容などの事情」の割合が47.4%から41.8%と5.6ポイント減少、「心身のストレス、病気」が36.5%から32.9%と3.6ポイント減少している。

図表 68 転職した理由（転職回数が1回以上の人）（複数回答）（前回調査との比較）



ジョブ・トレーナーの配置状況別にみると、「配置なし」では「給与や労働条件・仕事内容などの事情」が66.7%と最も割合が高くなっている。「配置あり」では「職場の人間関係」、「心身のストレス、病気」が34.9%と最も割合が高くなっている。

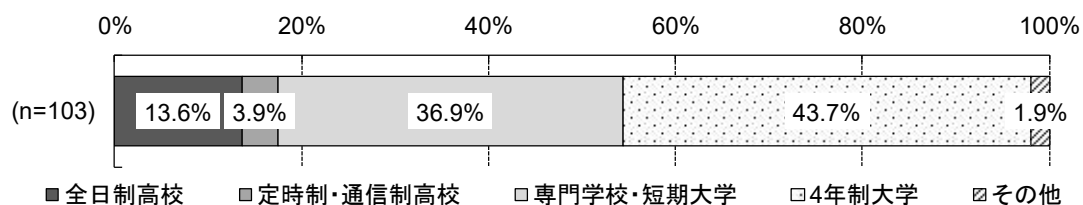
図表 69 転職した理由（転職回数が1回以上の人）（複数回答）
（ジョブ・トレーナー配置状況別）（自立援助ホームのみ）



⑤ 現在通っている学校の種類

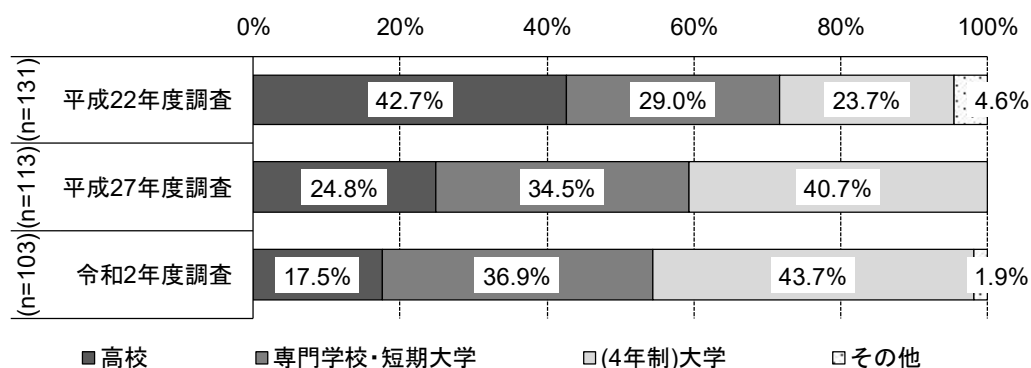
「4年制大学」の割合が最も高く 43.7%となっている。次いで、「専門学校・短期大学 (36.9%)」、「全日制高校 (13.6%)」となっている。

図表 70 現在通っている学校の種類（現在学校に通っている人）



前回調査と比較すると、「高校」の割合は減少傾向にあり、「専門学校・短期大学」、「(4年制)大学」の割合が増加している。

図表 71 現在通っている学校の種類（現在学校に通っている人）
（前回調査との比較）



(注1) 今回調査結果について、「全日制高校」と「定時制・通信制高校」を合わせて「高校」、前回調査までの結果について、「専門学校」と「短期大学」を合わせて「専門学校・短期大学」とした。

(注2) 前回調査までの「大学」の選択肢を、今回調査では「4年制大学」と変更した。

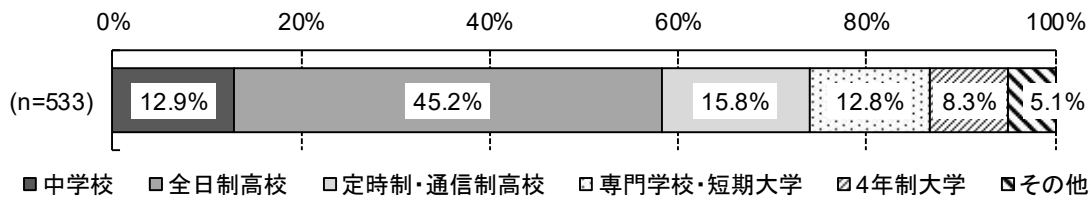
(注3) 今回調査では、「その他」を追加しただけだ。

⑥ 最終学歴

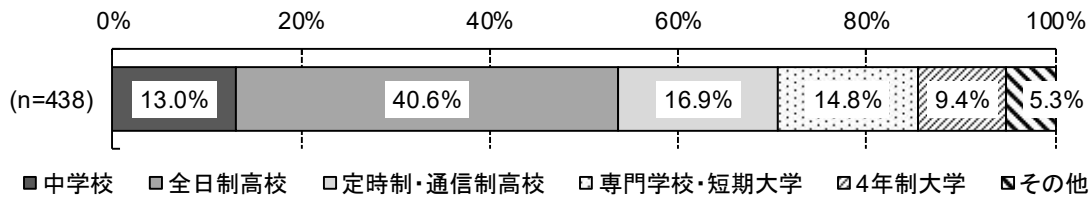
「全日制高校」の割合が最も高く 45.2%となっている。次いで、「定時制・通信制高校 (15.8%)」、「中学校 (12.9%)」となっている。

また、現在学校に通っている人を除くと、「全日制高校」の割合が最も高く 40.6%となっている。次いで、「定時制・通信制高校 (16.9%)」、「専門学校・短期大学 (14.8%)」となっている。

図表 72 最終学歴

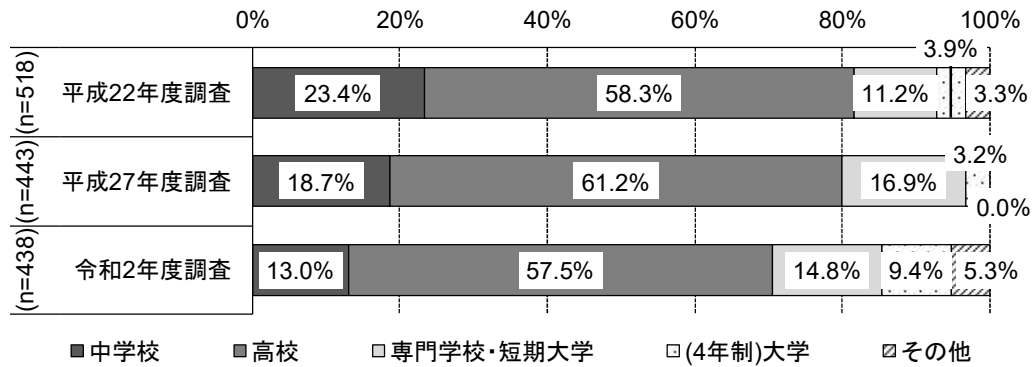


図表 73 最終学歴（現在学校に通っている人を除く）



前回調査と比較すると、「中学校」の割合は減少傾向にある。また、今回調査では「(4年制)大学」の割合が前回調査より、6.2ポイント増加している。

図表 74 最終学歴（現在学校に通っている人を除く）（前回調査との比較）



(注1) 今回調査結果について、「全日制高校」と「定時制・通信制高校」を合わせて「高校」、前回調査までの結果について、「専門学校」と「短期大学」を合わせて「専門学校・短期大学」とした。

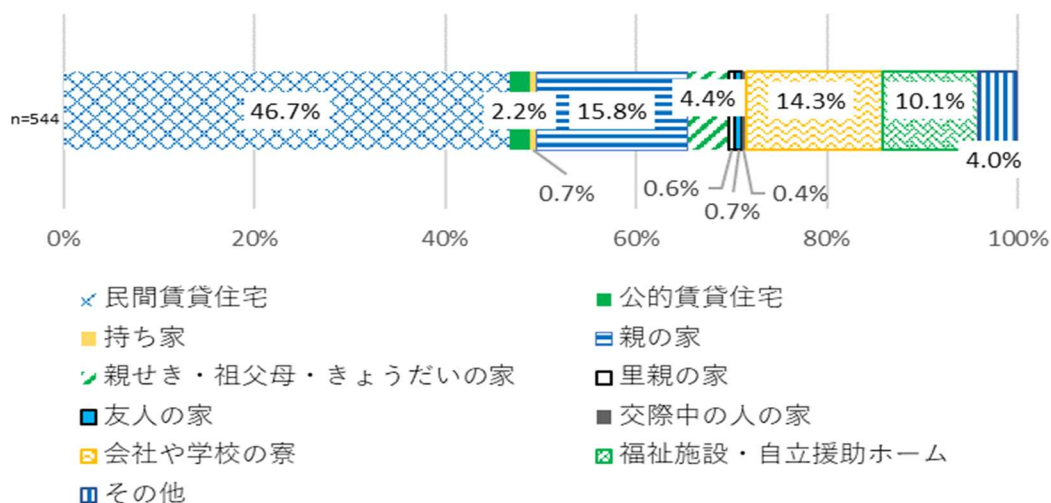
(注2) 前回調査までの「大学」の選択肢を、今回調査では「4年制大学」と変更した。

3. 住まい・家計の状況

(1) 退所直後の住まい

「民間賃貸住宅」の割合が最も高く 46.7%となっている。次いで、「親の家 (15.8%)」、「会社や学校の寮 (14.3%)」となっている。

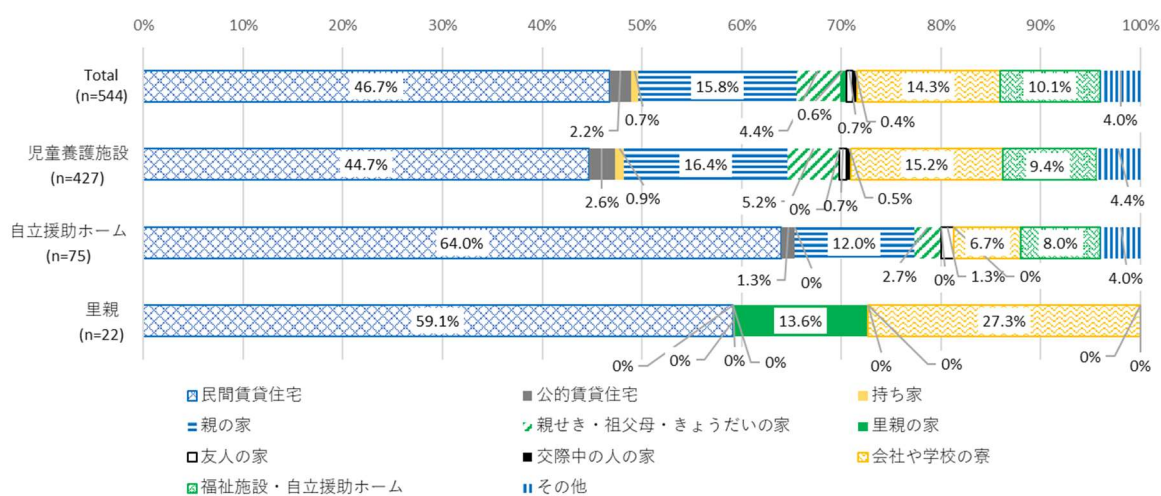
図表 75 退所直後の住まい



(注) 「その他」として、「グループホーム」、「シェアハウス」、「NPO 法人」、「ホテル」、「入院」などが挙げられた。

施設の種類の別みると、いずれも「民間賃貸住宅」の割合が最も高く、「児童養護施設」では 44.7%、「自立援助ホーム」では 64.0%、「里親」では 59.1%となっている。

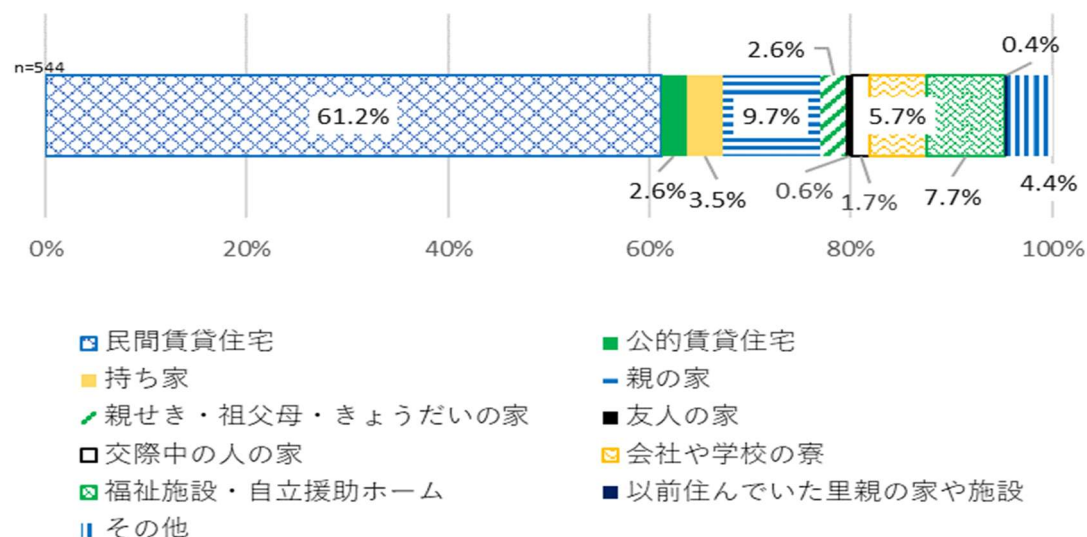
図表 76 退所直後の住まい（施設等の種類別）



(2) 現在の住まい

「民間賃貸住宅」の割合が最も高く 61.2%となっている。次いで、「親の家 (9.7%)」、「福祉施設・自立援助ホーム (7.7%)」となっている。

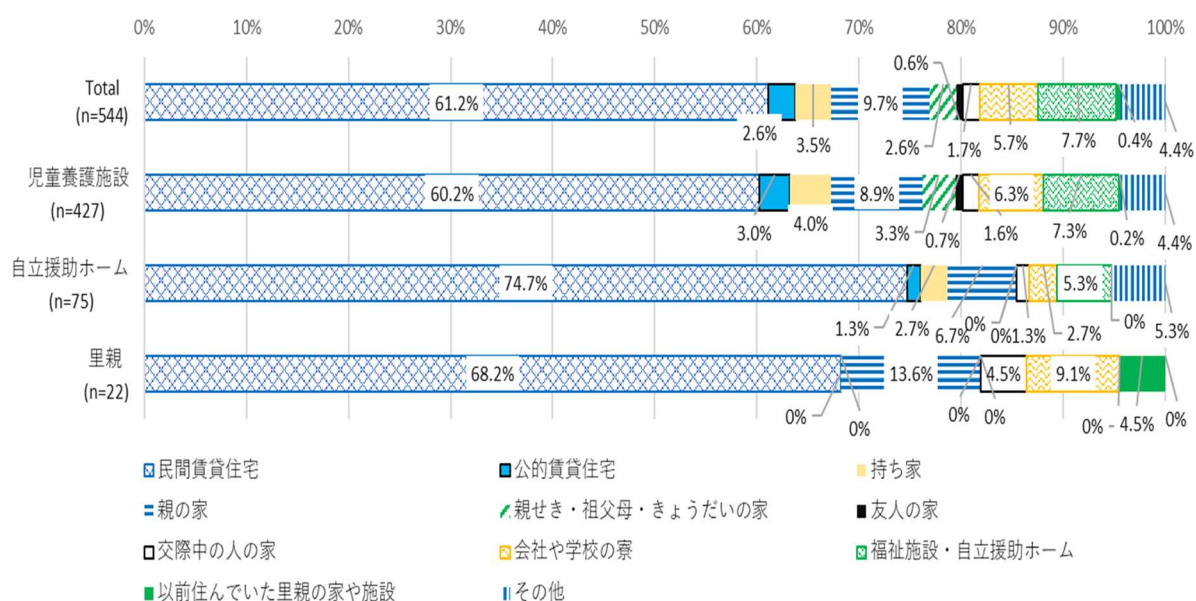
図表 77 現在の住まい



(注) 「その他」として、「グループホーム」、「シェアハウス」、「母子生活支援施設」などが挙げられた。

施設の種類の別に見ると、いずれも「民間賃貸住宅」の割合が最も高く、「児童養護施設」では 60.2%、「自立援助ホーム」では 74.7%、「里親」では 68.2%となっている。

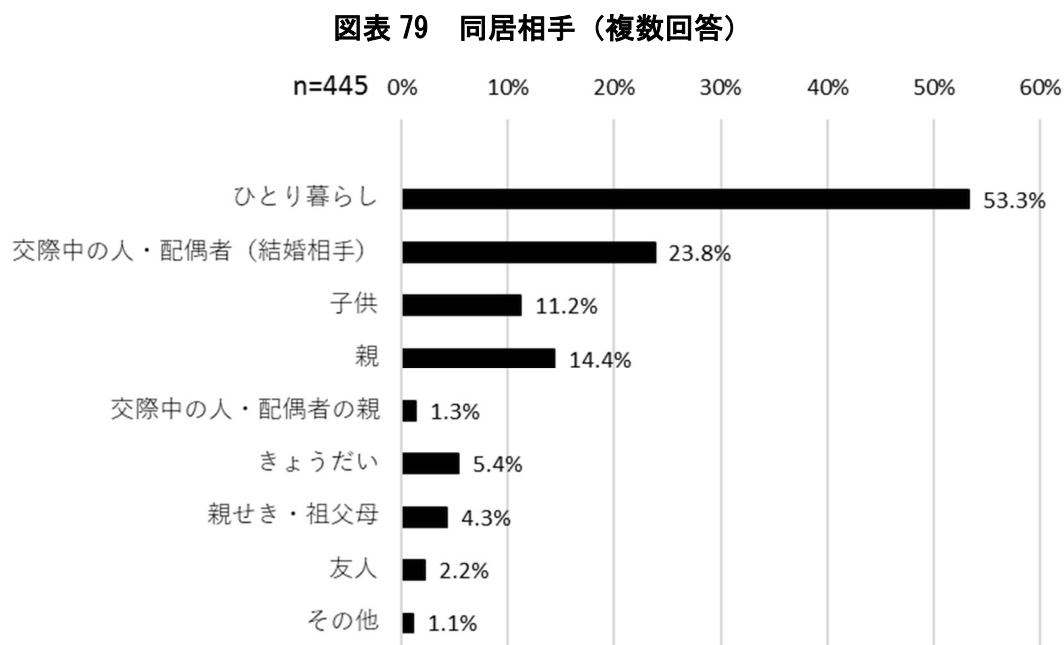
図表 78 現在の住まい（施設等の種類別）



(3) 同居相手

① 同居相手

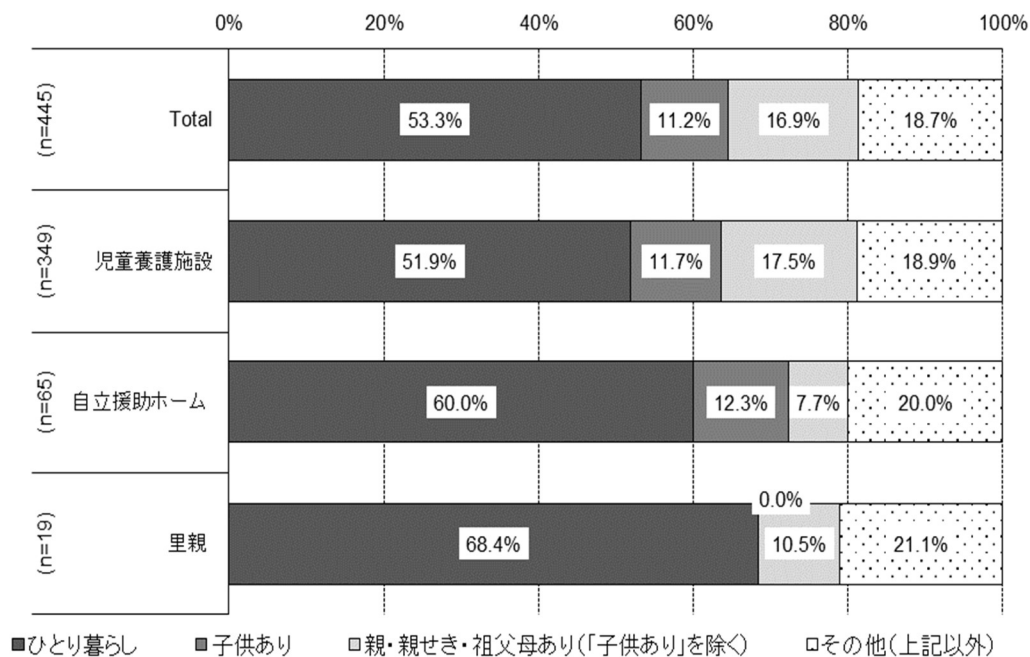
「ひとり暮らし」の割合が最も高く53.3%となっている。次いで、「交際中の人・配偶者（結婚相手）（23.8%）」、「親（14.4%）」となっている。



（注）現在の住まいについて、「民間賃貸住宅」「公的賃貸住宅」「持ち家」「親の家」「親せき・祖父母・きょうだいの家」「友人の家」「交際中の人の家」のいずれかを回答した人にたずねた。

施設の種類別にみると、いずれも「ひとり暮らし」の割合が最も高く、「児童養護施設」では51.9%、「自立援助ホーム」では60.0%、「里親」では68.4%となっている。

図表 80 同居相手の組み合わせ（施設等の種類別）

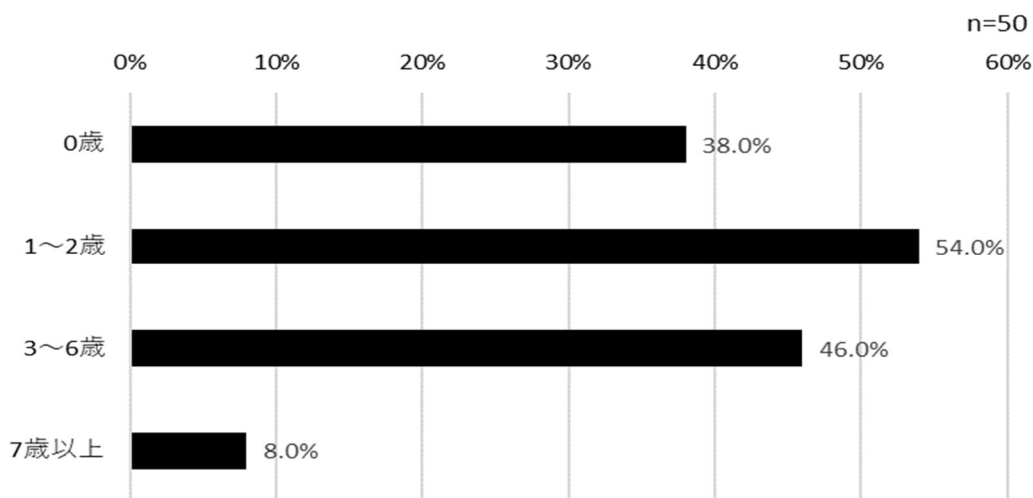


(注) 同居相手について回答した人について、「ひとり暮らし」を回答した人を「ひとり暮らし」、「子供」を回答した人を「子供あり」、「子供」を選ばなかった人の中で「親」「親せき・祖父母」のいずれかを回答した人を「親・親せき・祖父母あり」、いずれにも該当しない人を「その他」と整理した。

② 子供の年齢

「1～2歳」の割合が最も高く 54.0%となっている。次いで、「3～6歳 (46.0%)」、「0歳 (38.0%)」となっている。

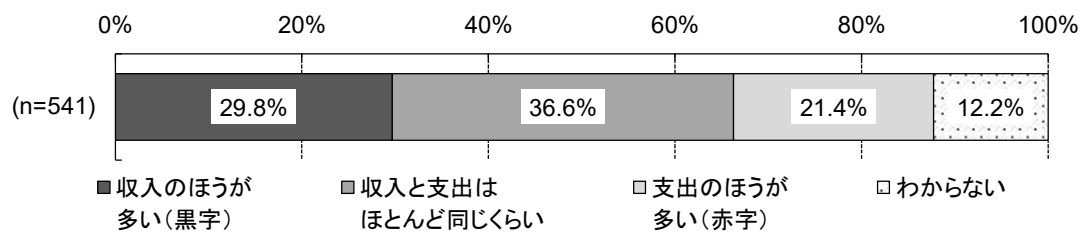
図表 81 子供の年齢（複数回答）



(4) 月々の収支バランス

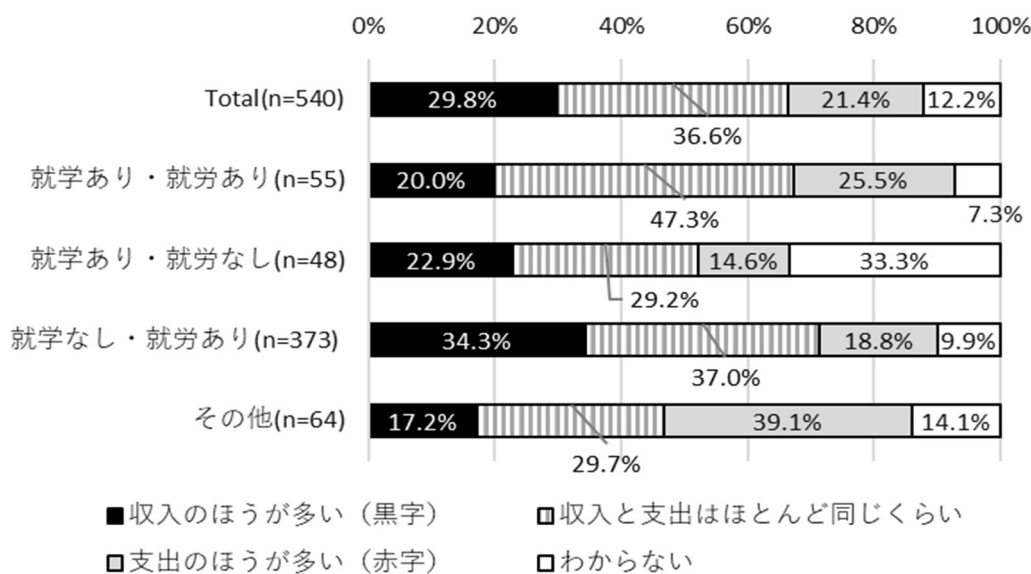
「収入と支出はほとんど同じくらい」の割合が最も高く 36.6%となっている。次いで、「収入のほうが多い（黒字）（29.8%）」、「支出のほうが多い（赤字）（21.4%）」となっている。

図表 82 月々の収支バランス



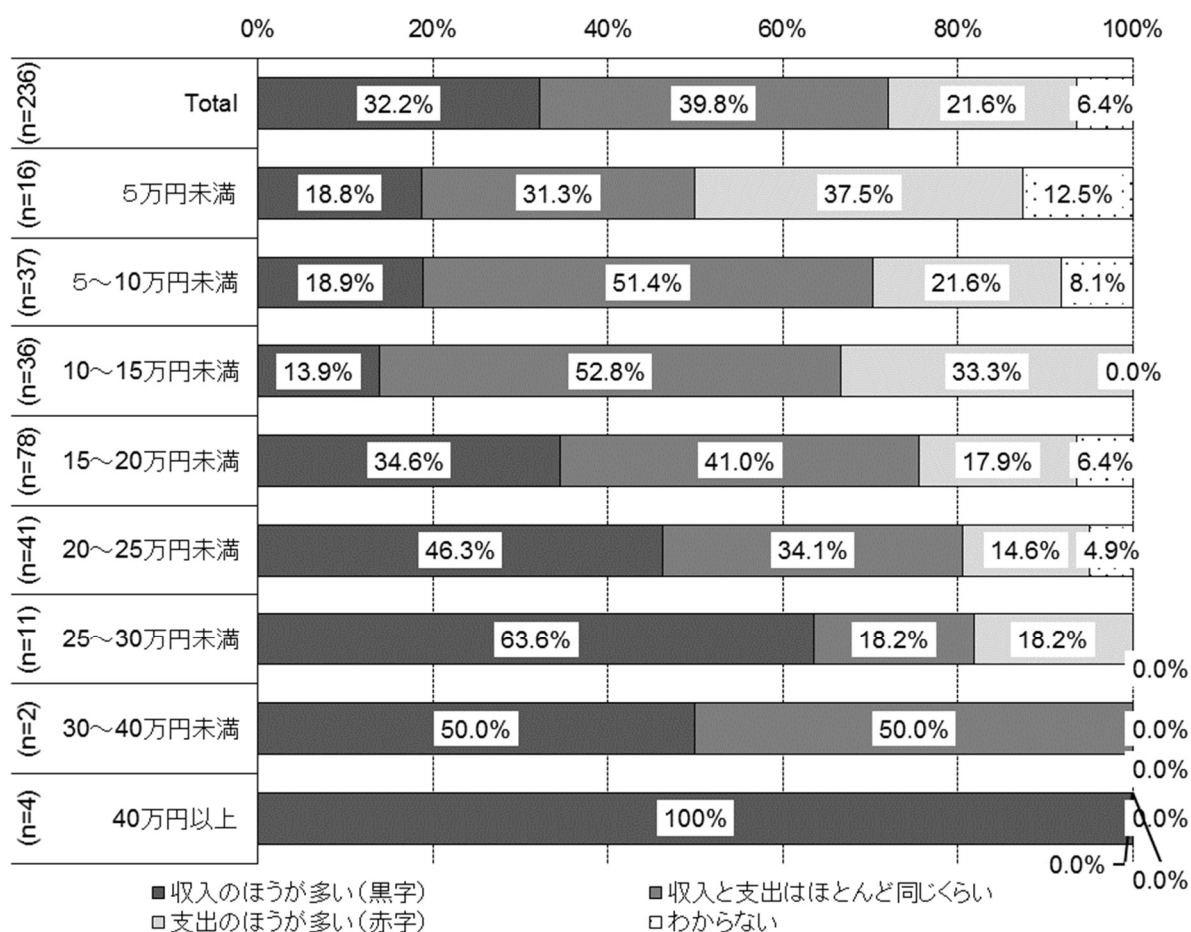
現在の就労・就学の状況別にみると、「就学あり・就労あり」では「収入と支出はほとんど同じくらい」が 47.3%と最も割合が高くなっている。「就学あり・就労なし」では「わからない」が 33.3%で最も割合が高くなっている。「就学なし・就労あり」では「収入と支出はほとんど同じくらい」が 37.0%で最も割合が高くなっている。「その他」では「支出のほうが多い（赤字）」が 39.1%で最も割合が高くなっている。

図表 83 月々の収支バランス（現在の就労・就学の状況別）



ひとり暮らしの人について、手取りの月収別にみると、手取りの月収が増えるほど、「収入のほうが多い（黒字）」を回答する人の割合が高くなっている。

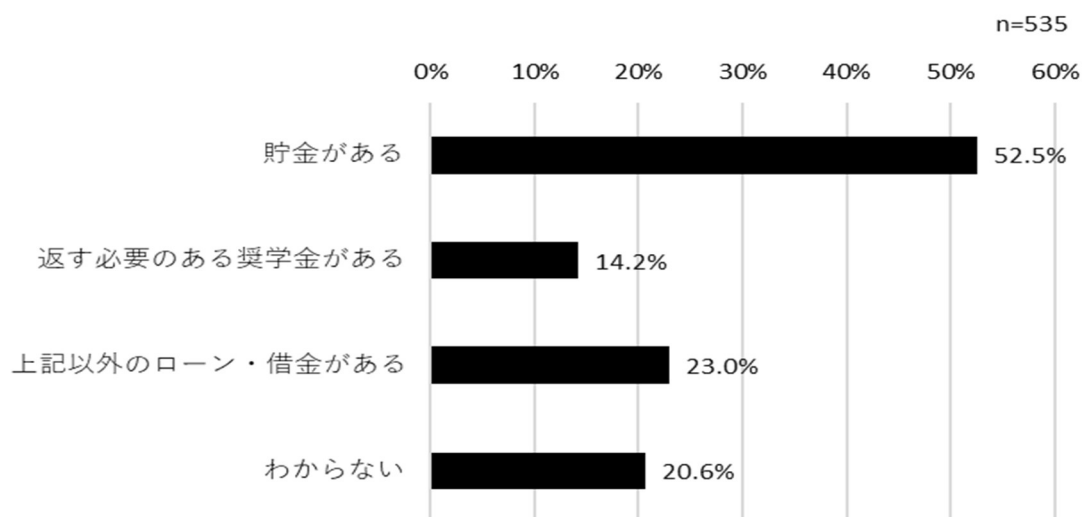
図表 84 月々の収支バランス（手取りの月収別）（ひとり暮らしのみ）



(5) 現在の家計の状況

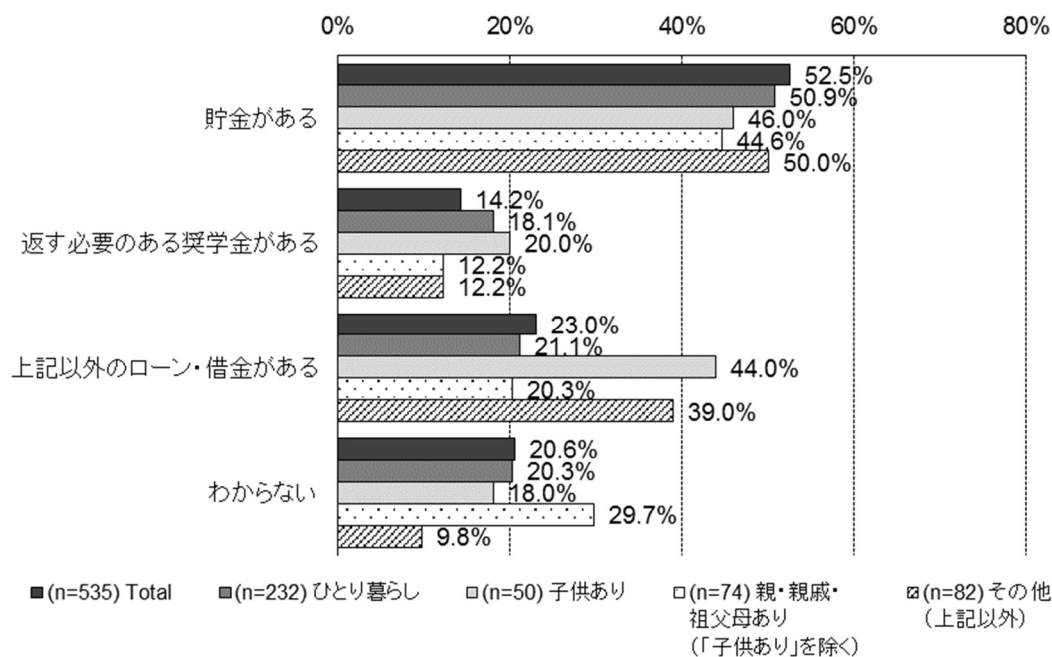
「貯金がある」の割合が最も高く 52.5%となっている。次いで、「上記以外のローン・借金がある (23.0%)」、「わからない (20.6%)」となっている。

図表 85 現在の家計の状況 (複数回答)



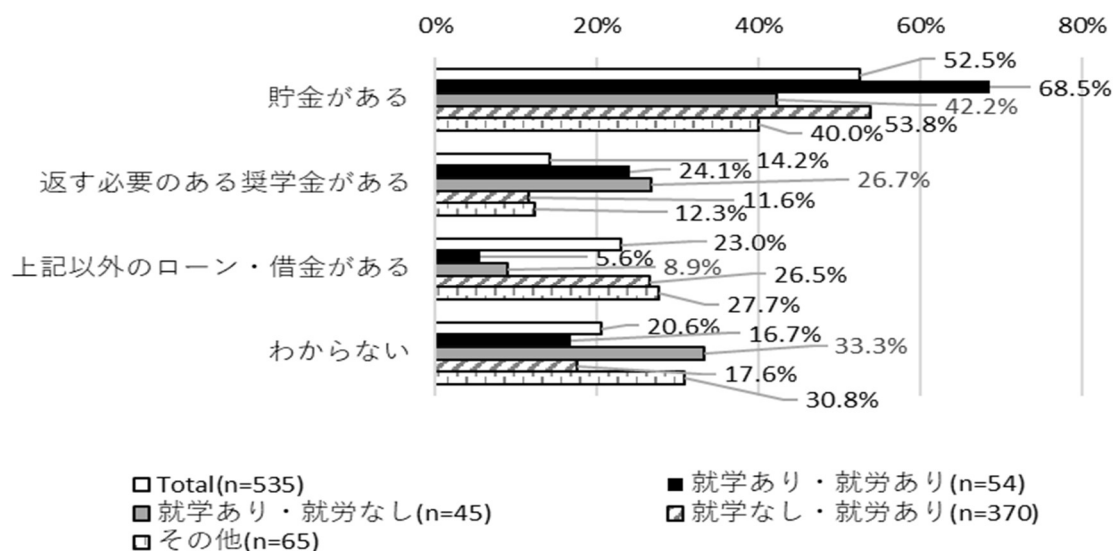
同居の相手の状況別にみると、いずれも「貯金がある」の割合が最も高く、「ひとり暮らし」では 50.9%、「子供あり」では 46.0%、「親・親せき・祖父母あり (「子供あり」を除く)」では 44.6%、「その他」では 50.0%となっている。

図表 86 現在の家計の状況 (複数回答) (同居相手の状況別)



現在の就労・就学の状況別にみると、いずれも「貯金がある」の割合が最も高く、「就学あり・就労あり」では68.5%、「就学あり・就労なし」では42.2%、「就学なし・就労あり」では53.8%、「その他」では40.0%となっている。

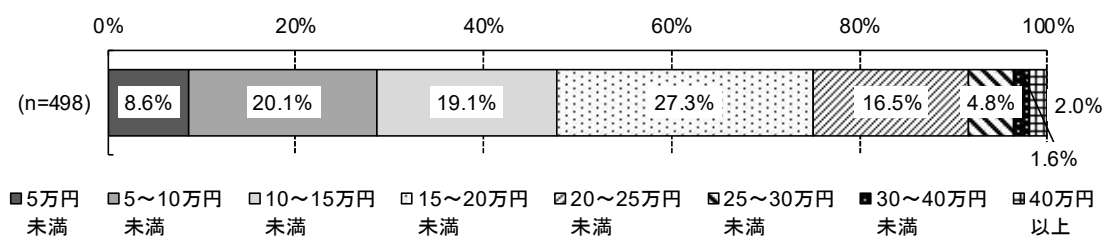
図表 87 現在の家計の状況（複数回答）（現在の就労・就学の状況別）



(6) 手取りの月収

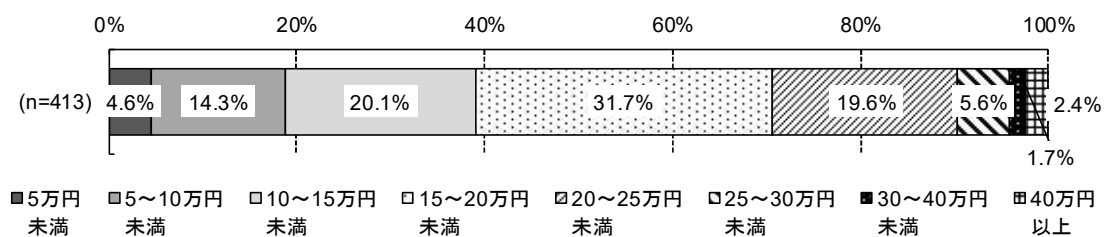
「15～20万円未満」の割合が最も高く27.3%となっている。次いで、「5～10万円未満 (20.1%)」、「10～15万円未満 (19.1%)」となっている。

図表 88 手取りの月収



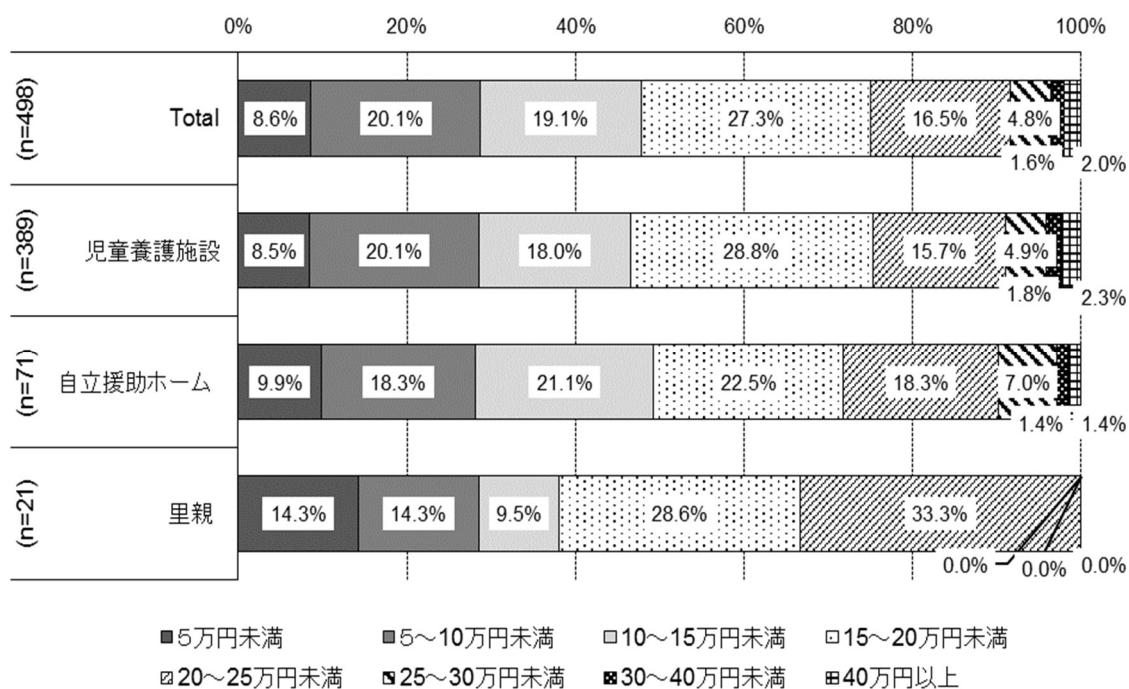
(注) 今回調査より、手取りについての注釈（「手取り」とは、税金や社会保険料等を除いた、実際にあなたの手元に入る金額）を加えたうえで、当該質問をたずねた。

図表 89 【参考】手取りの月収（学校に通っている人を除く）



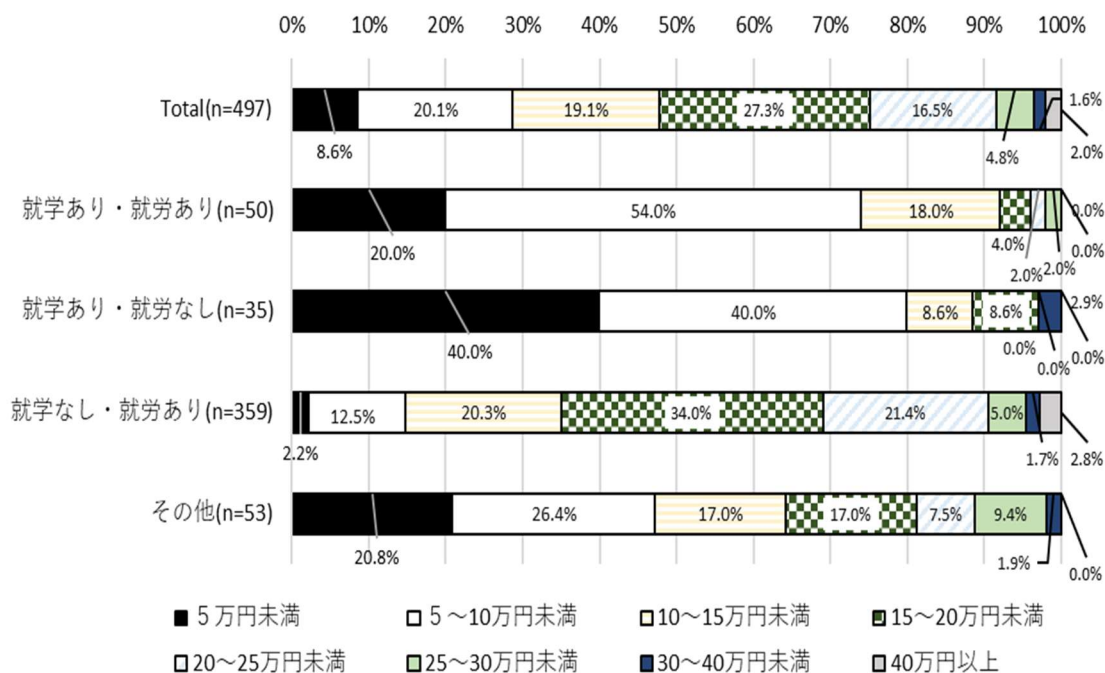
施設の種類別にみると、「児童養護施設」では「15～20万円未満」が28.8%と最も割合が高くなっている。「自立援助ホーム」では「15～20万円未満」が22.5%と最も割合が高くなっている。「里親」では「20～25万円未満」が33.3%と最も割合が高くなっている。

図表 90 手取りの月収（施設等の種類別）



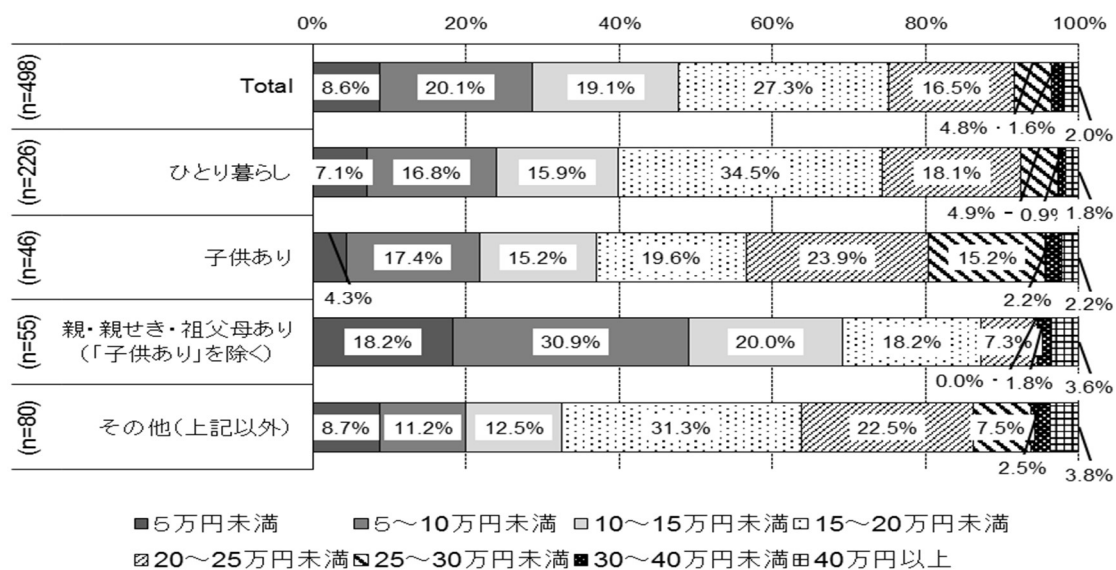
現在の就労・就学の状況別にみると、「就学あり・就労あり」では「5～10万円未満」が54.0%と最も割合が高くなっている。「就学あり・就労なし」では「5万円未満」、「5～10万円未満」が40.0%と最も割合が高くなっている。「就学なし・就労あり」では「15～20万円未満」が34.0%と最も割合が高くなっている。「その他」では「5～10万円未満」が26.4%と最も割合が高くなっている。

図表 91 手取りの月収（現在の就労・就学の状況別）



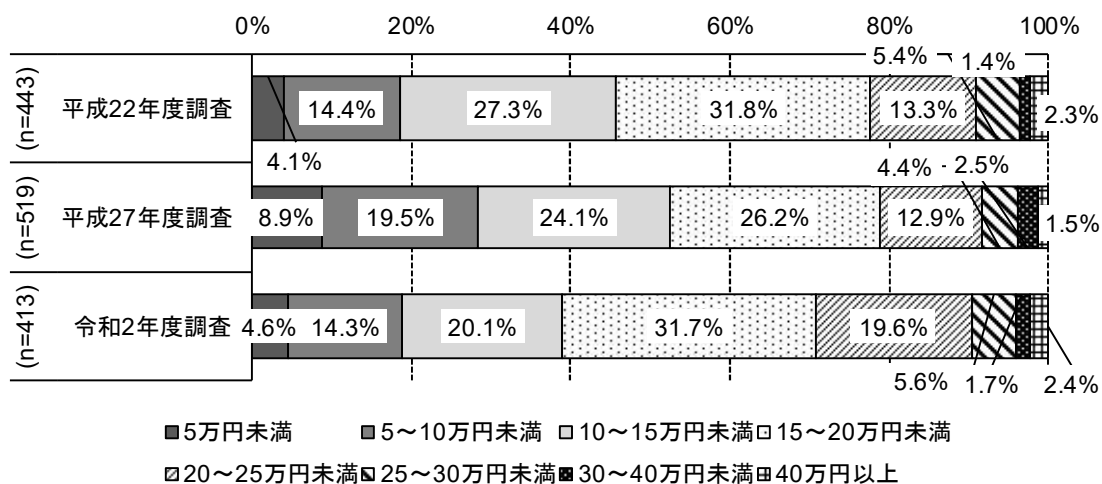
同居相手の状況別にみると、「ひとり暮らし」では「15~20万円未満」が34.5%と最も割合が高くなっている。「子供あり」では「20~25万円未満」が23.9%と最も割合が高くなっている。「親・親せき・祖父母あり（「子供あり」を除く）」では「5~10万円未満」が30.9%と最も割合が高くなっている。「その他（上記以外）」では「15~20万円未満」が31.3%と最も割合が高くなっている。

図表 92 手取りの月収（同居相手の状況別）



前回調査と比較すると、「20～25万円未満」の割合が12.9%から19.6%と6.7ポイント増加、「15～20万円未満」が26.2%から31.7%と5.5ポイント増加している。

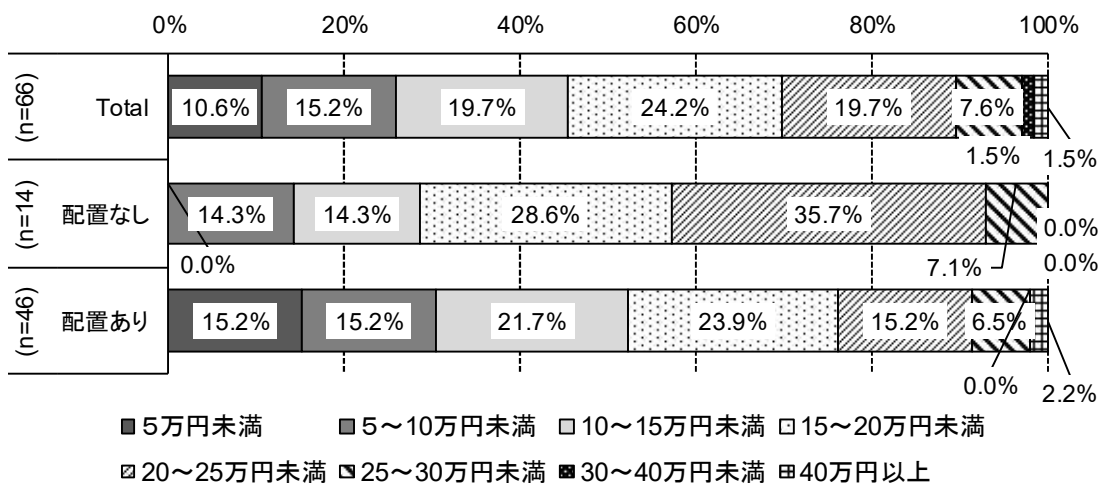
図表 93 手取りの月収（学校に通っている人を除く）（前回調査との比較）



(注) 今回調査より、手取りについての注釈（「手取り」とは、税金や社会保険料等を除いた、実際にあなたの手元に入る金額）を加えたうえで、当該質問をたずねた。

ジョブ・トレーナーの配置状況別にみると、「配置なし」では「20～25万円未満」が35.7%と最も割合が高くなっている。「配置あり」では「15～20万円未満」が23.9%と最も割合が高くなっている。

図表 94 手取りの月収（学校に通っている人を除く）（ジョブ・トレーナー配置状況別）（自立援助ホームのみ）

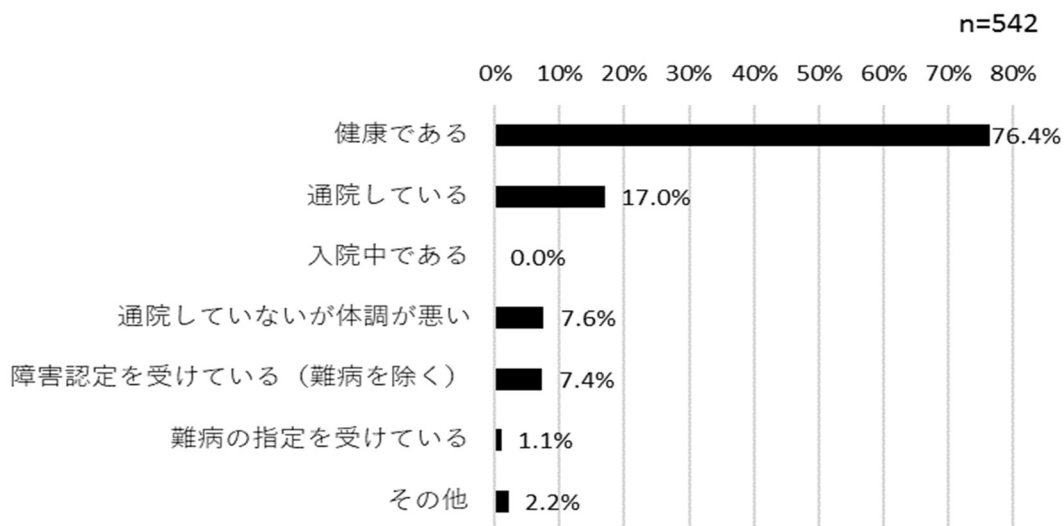


4. 健康・医療サービスの状況

(1) 現在の心身の状態等

「健康である」の割合が最も高く 76.4%となっている。次いで、「通院している (17.0%)」、「通院していないが体調が悪い (7.6%)」となっている。

図表 95 現在の心身の状態等 (複数回答)

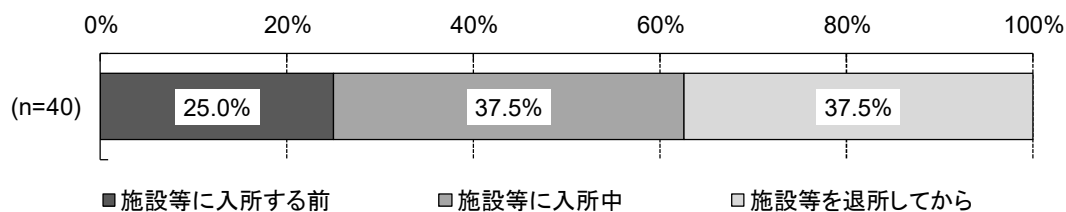


(注) 「その他」として、「精神的に辛い」、「てんかん」、「妊娠している」などが挙げられた。

(2) 障害認定を受けた時期

現在の心身の状態等について「障害認定を受けている (難病を除く)」と回答した人に認定時期をたずねたところ、「施設等に入所中」、「施設等を退所してから」の割合が高く、それぞれ 37.5%となっている。次いで、「施設等に入所する前 (25.0%)」となっている。

図表 96 障害認定を受けた時期

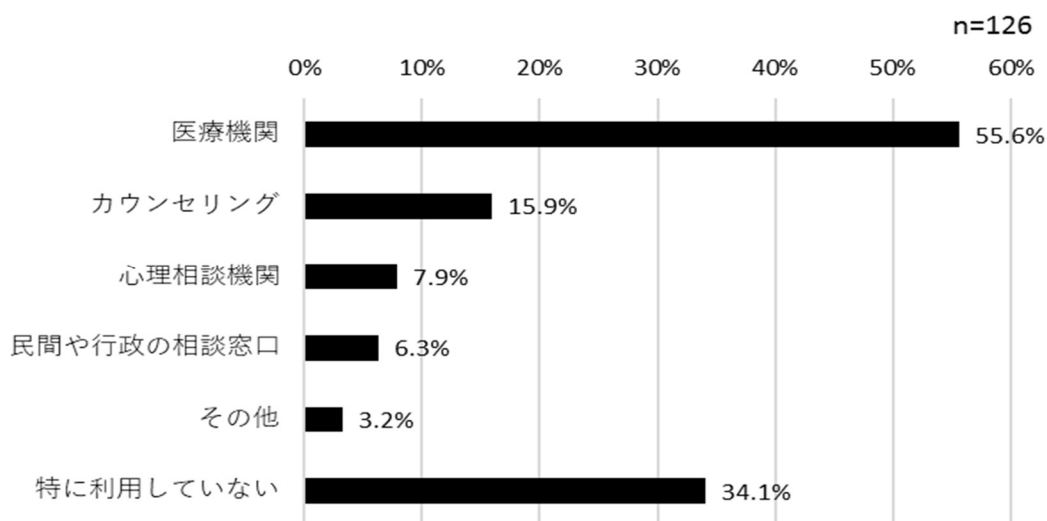


(3) 医療機関等の利用状況

① 医療機関等の利用状況

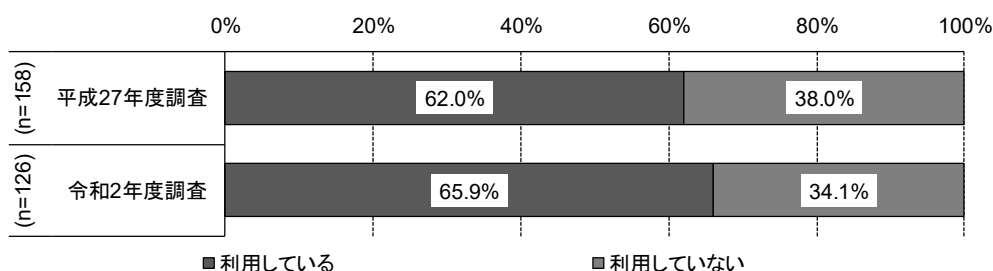
現在の心身の状態等について「健康である」を回答した人以外にたずねたところ、「医療機関」の割合が最も高く 55.6%となっている。次いで、「特に利用していない (34.1%)」、「カウンセリング (15.9%)」となっている。

図表 97 医療機関等の利用状況（現在の心身の状態等で「健康である」以外の回答をした人）（複数回答）



前回調査と比較すると、「利用している」が 62.0%から 65.9%と 3.9 ポイント増加している。

図表 98 医療機関等の利用の有無（前回調査との比較）



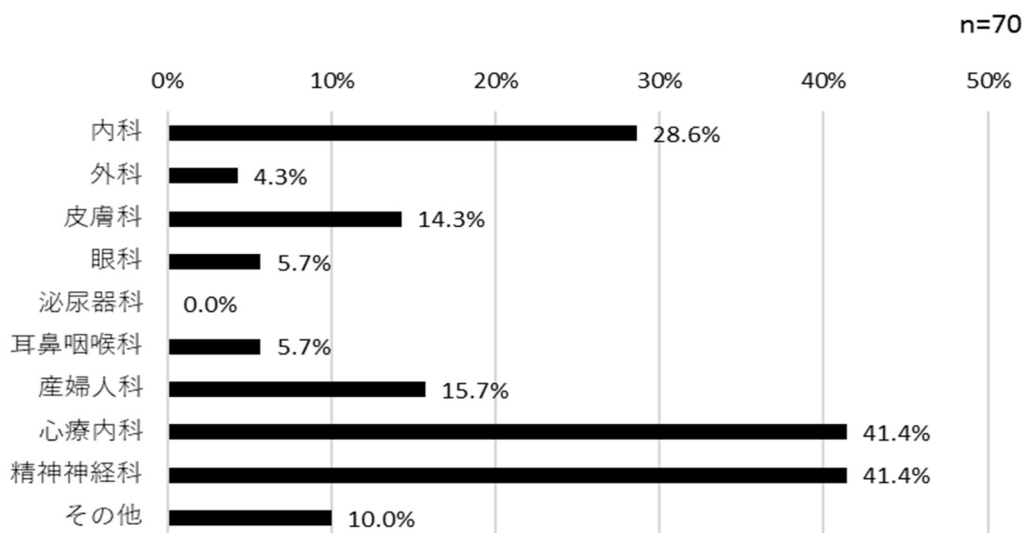
(注1) 「医療機関等の利用状況」について、「特に利用していない」以外のいずれかの選択肢を選んだ人を「利用している」と整理した。

(注2) 前回調査では、最近1か月の健康状態について5段階でたずね、「悪い」「どちらかと言えば悪い」を回答した人に、医療機関や相談機関の利用の有無をたずねた。

② 通院している診療科

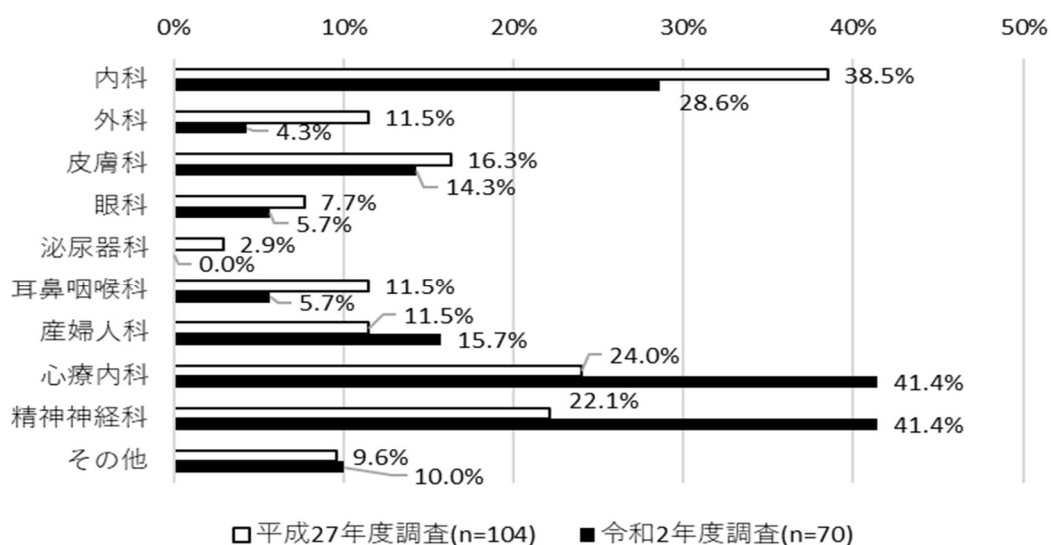
「心療内科」、「精神神経科」の割合が高く、それぞれ41.4%となっている。次いで、「内科（28.6%）」、「産婦人科（15.7%）」となっている。

図表 99 通院している診療科（医療機関を利用している人）（複数回答）



前回調査と比較すると、「精神神経科」が22.1%から41.4%と19.3ポイントの増加、「心療内科」が24.0%から41.4%と17.4ポイント増加している。

図表 100 通院している診療科（医療機関を利用している人）（複数回答）
（前回調査との比較）

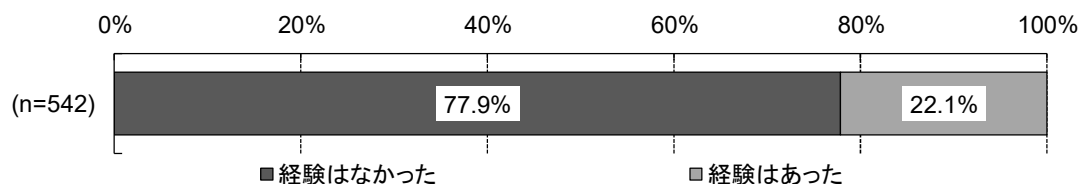


(4) 最近1か月の間に、健康上の理由で普段の活動ができなかった経験

① 最近1か月の間に、健康上の理由で普段の活動ができなかった経験の有無

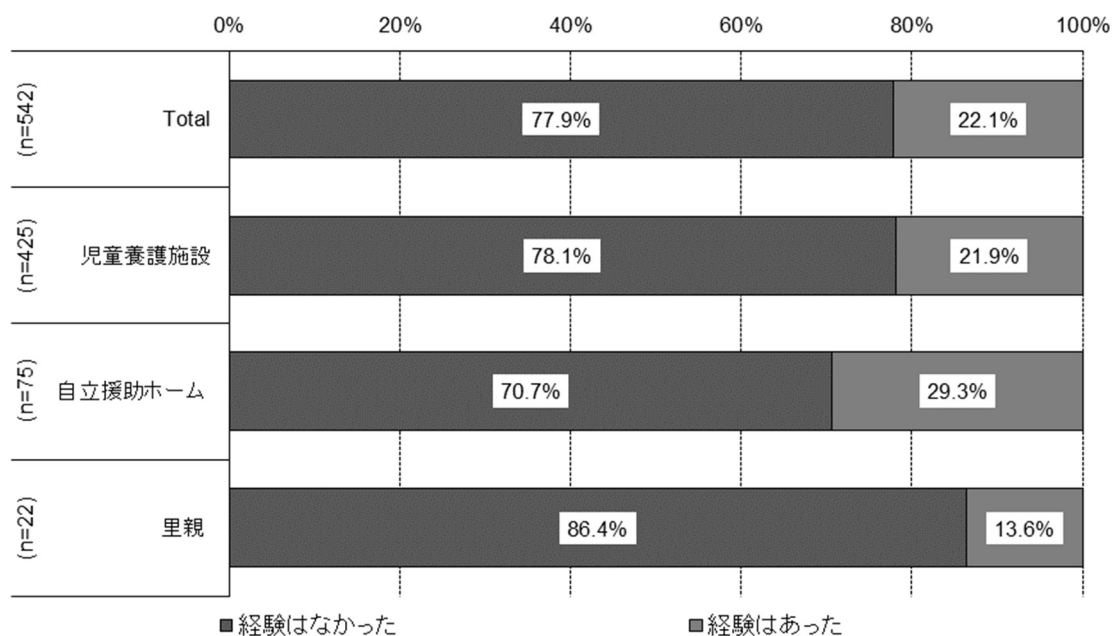
「経験はなかった」が77.9%、「経験はあった」が22.1%となっている。

図表 101 最近1か月の間に、健康上の理由で普段の活動ができなかった経験の有無



施設の種類の別に見ると、いずれにおいても「経験はなかった」の割合が高くなっている。

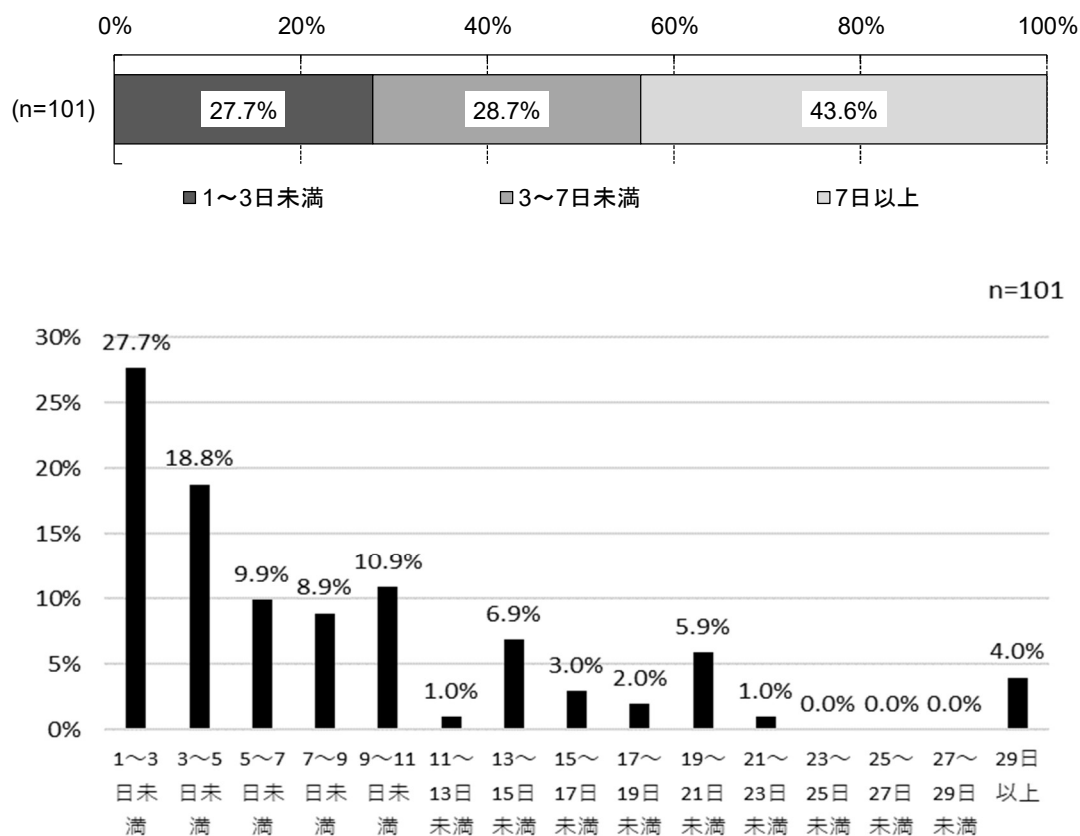
図表 102 最近1か月の間に、健康上の理由で普段の活動ができなかった経験の有無
(施設等の種類別)



② 普段の活動ができなかった日数

最近1か月の間に、健康上の理由で普段の活動ができなかった経験の有無について「経験はあった」を回答した人にたずねたところ、「7日以上」の割合が最も高く43.6%となっている。次いで、「3～7日未満(28.7%)」、「1～3日未満(27.7%)」となっている。

図表 103 普段の活動ができなかった日数



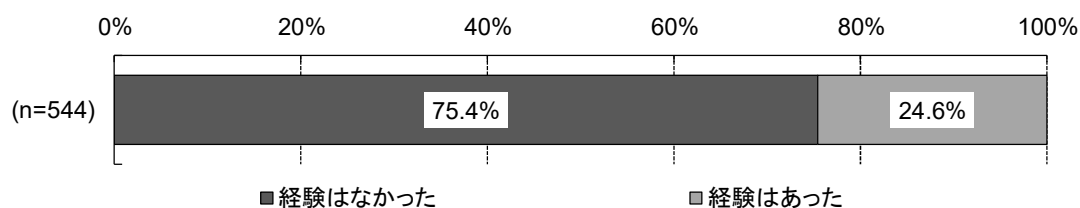
(注) 平均値 7.8、最小値 1.0、最大値 30.0、標準偏差 7.3。

(5) 過去1年間に、病院や歯科に行けなかった経験

① 過去1年間に、病院や歯科に行けなかった経験の有無

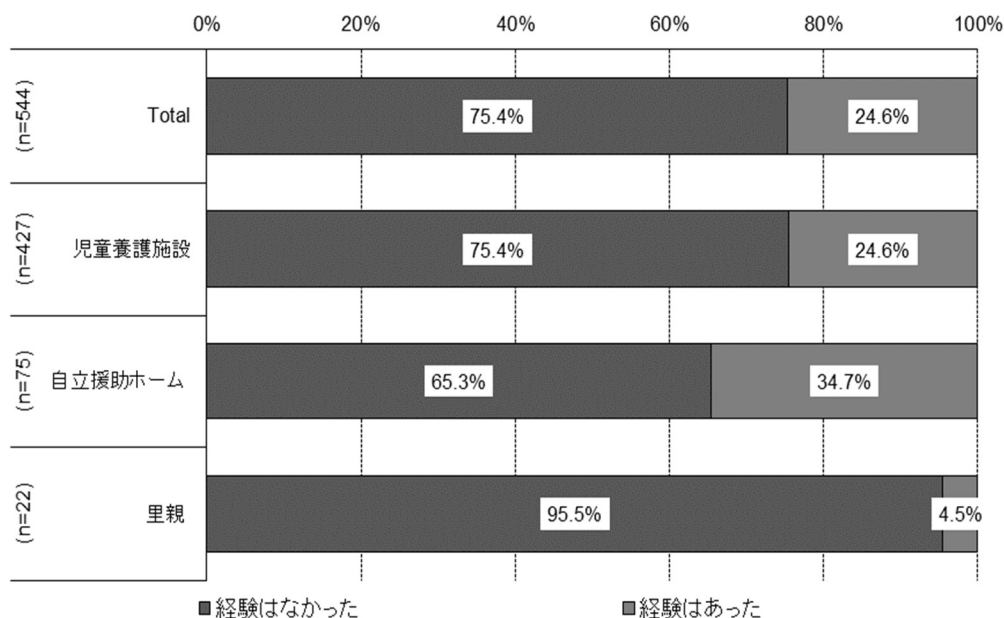
「経験はなかった」が75.4%、「経験はあった」が24.6%となっている。

図表 104 過去1年間に、病院や歯科に行けなかった経験の有無



施設の種類の別に見ると、いずれにおいても「経験はなかった」の割合が高くなっている。

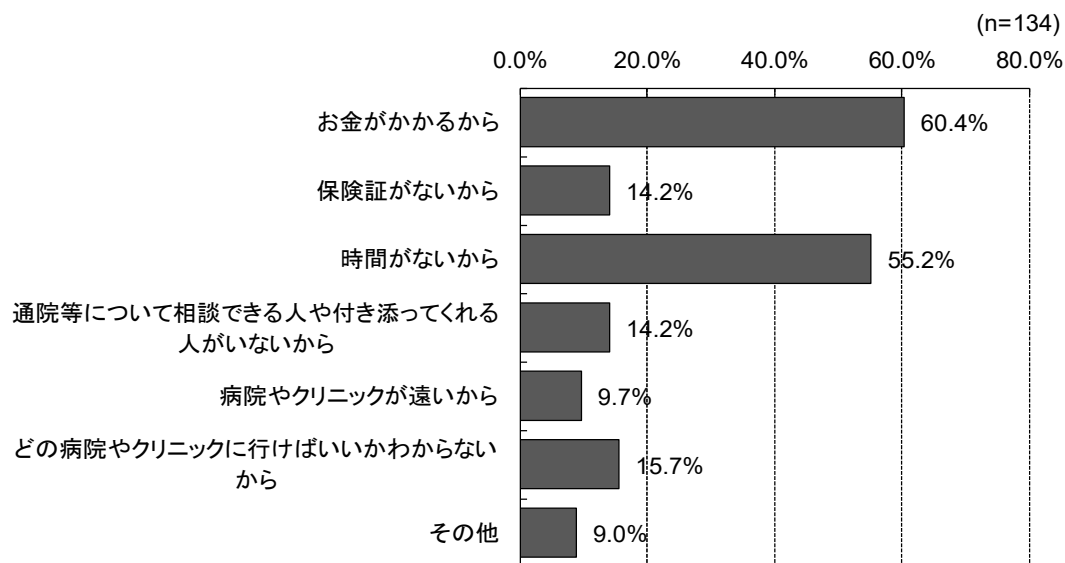
図表 105 過去 1 年間に、病院や歯科に行けなかった経験の有無（施設等の種類別）



② 病院や歯科に行けなかった理由

「お金がかかるから」の割合が最も高く 60.4%となっている。次いで、「時間がないから (55.2%)」、「どの病院やクリニックに行けばいいかわからないから (15.7%)」となっている。

図表 106 病院や歯科に行けなかった理由（複数回答）



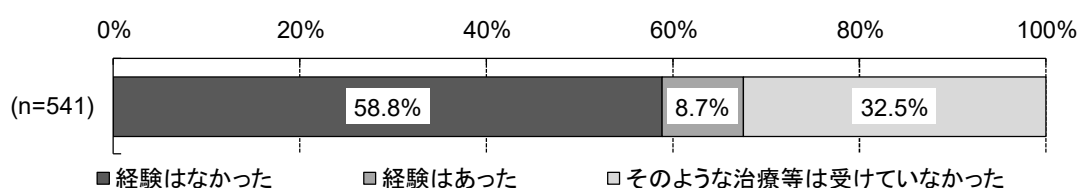
(注) 「その他」として、「新型コロナウイルスの影響」、「外出する勇気がない」、「心に余裕がない」、「保険証が手元にない」、「産後で子供を連れていけないから」、「障害とうつ症状のため」などが挙げられた。

(6) 施設等で受けていた治療・カウンセリング等について、退所後に受けられなくなった経験

① 施設等で受けていた治療・カウンセリング等について、退所後に受けられなくなった経験の有無

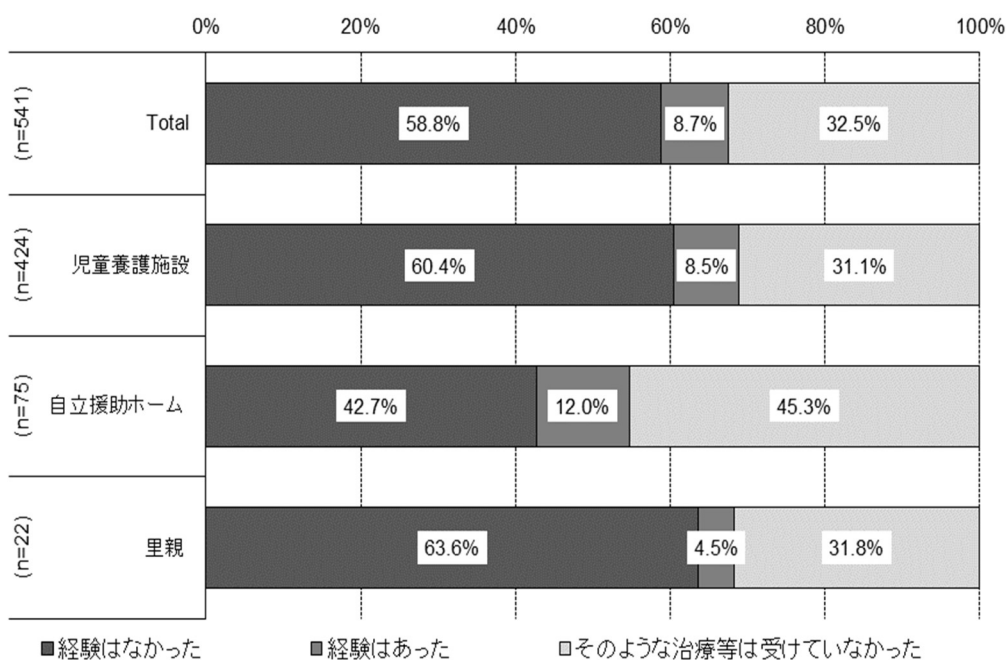
「経験はなかった」の割合が最も高く 58.8%となっている。次いで、「そのような治療等は受けていなかった (32.5%)」、「経験があった (8.7%)」となっている。

図表 107 施設等で受けていた治療・カウンセリング等について、退所後に受けられなくなった経験の有無



施設の種類別にみると、「児童養護施設」「里親」では「経験はなかった」が 60.4%、63.6%とそれぞれ最も割合が高くなっている。「自立援助ホーム」では「そのような治療等は受けていなかった」が 45.3%と最も割合が高くなっている。

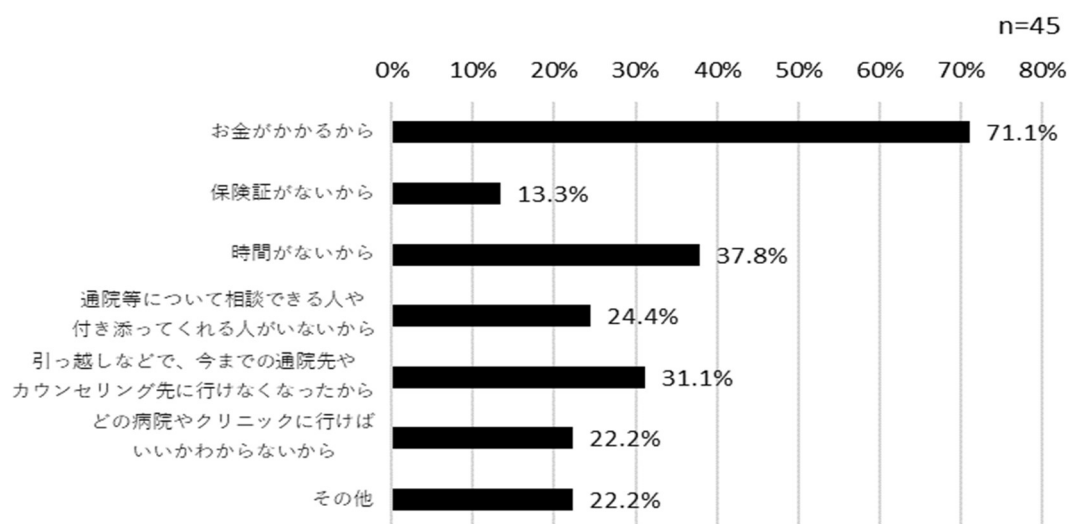
図表 108 施設等で受けていた治療・カウンセリング等について、退所後に受けられなくなった経験の有無 (施設等の種類別)



② 退所後に受けられなくなった理由

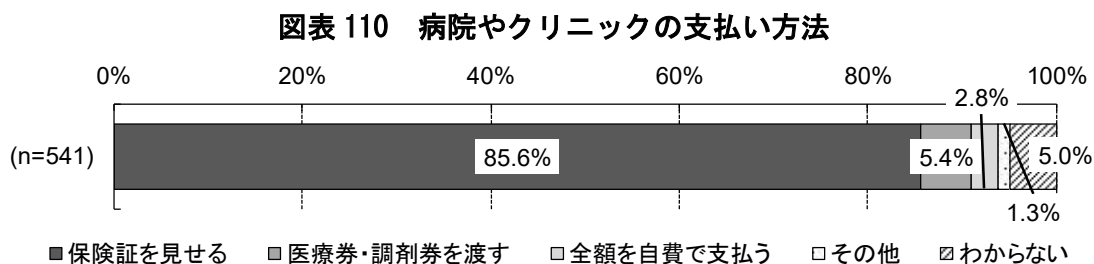
「お金がかかるから」の割合が最も高く71.1%となっている。次いで、「時間がないから(37.8%)」、「引っ越しなどで、今までの通院先やカウンセリング先に行けなくなったから(31.1%)」となっている。

図表 109 退所後に受けられなくなった理由（複数回答）



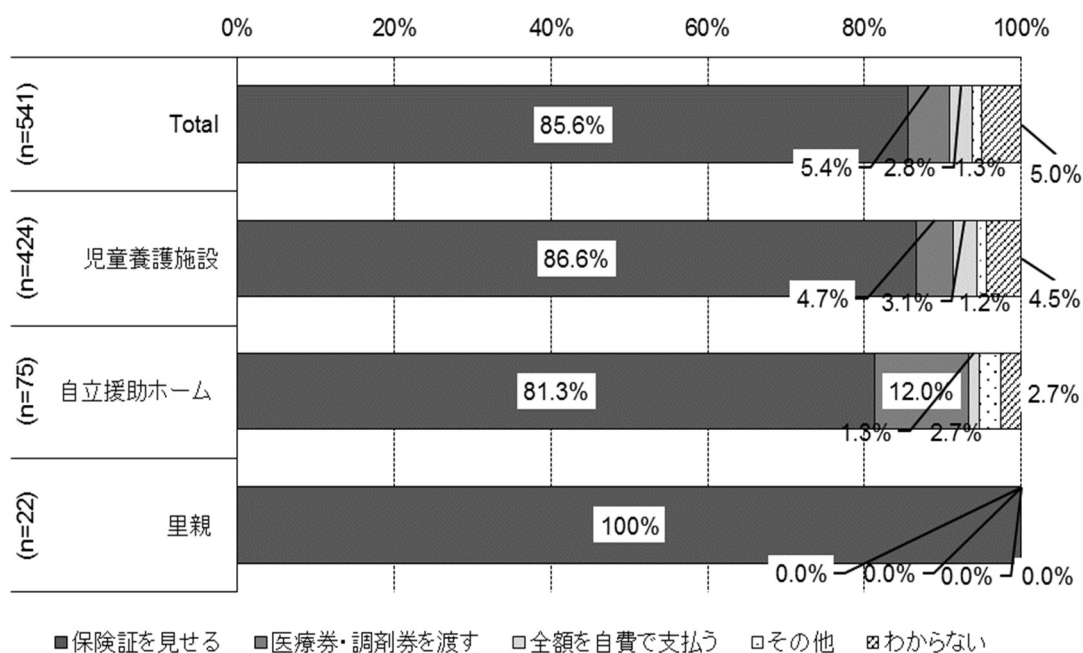
(7) 病院やクリニックの支払い方法

「保険証を見せる」の割合が最も高く 85.6%となっている。次いで、「医療券・調剤券を渡す (5.4%)」、「わからない (5.0%)」となっている。



施設の種類別にみると、いずれの施設の種類のにおいても、「保険証を見せる」の割合が高くなっている。

図表 111 病院やクリニックの支払い方法（施設等の種類別）

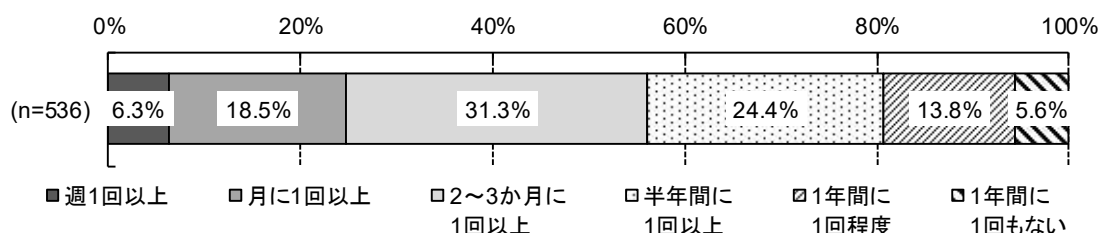


5. 生活していた施設等とのつながり・相談相手の状況

(1) 直近1年間の施設等との連絡頻度

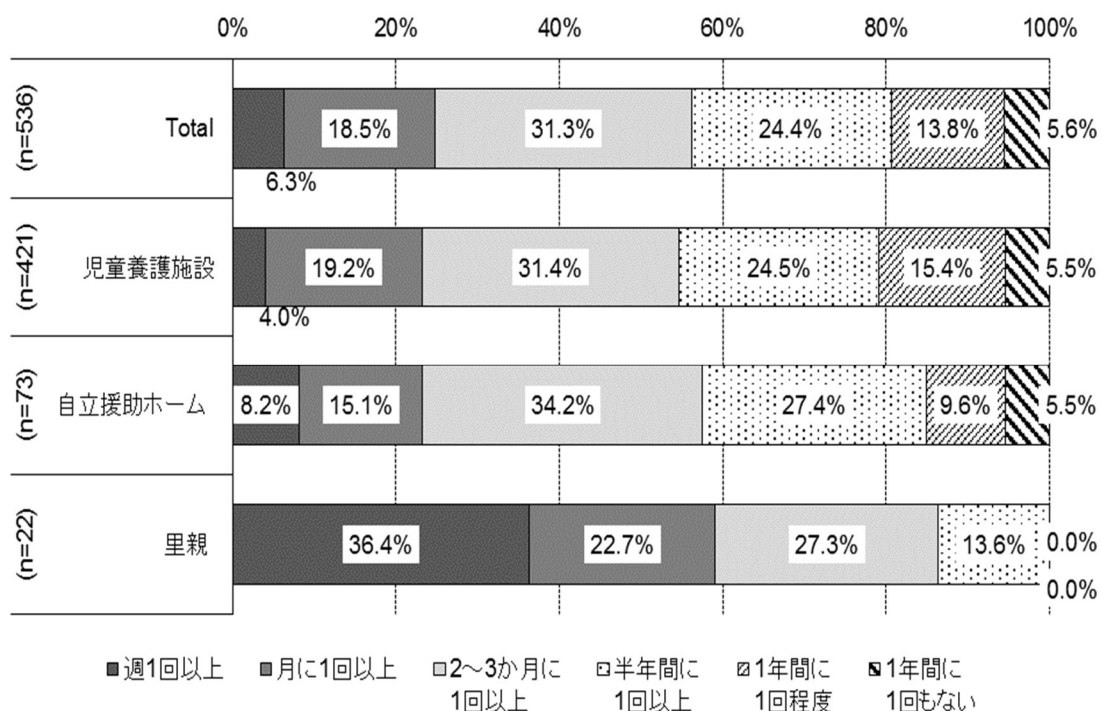
「2～3か月に1回以上」の割合が最も高く31.3%となっている。次いで、「半年間に1回以上（24.4%）」、「月に1回以上（18.5%）」となっている。

図表 112 直近1年間の施設等との連絡頻度

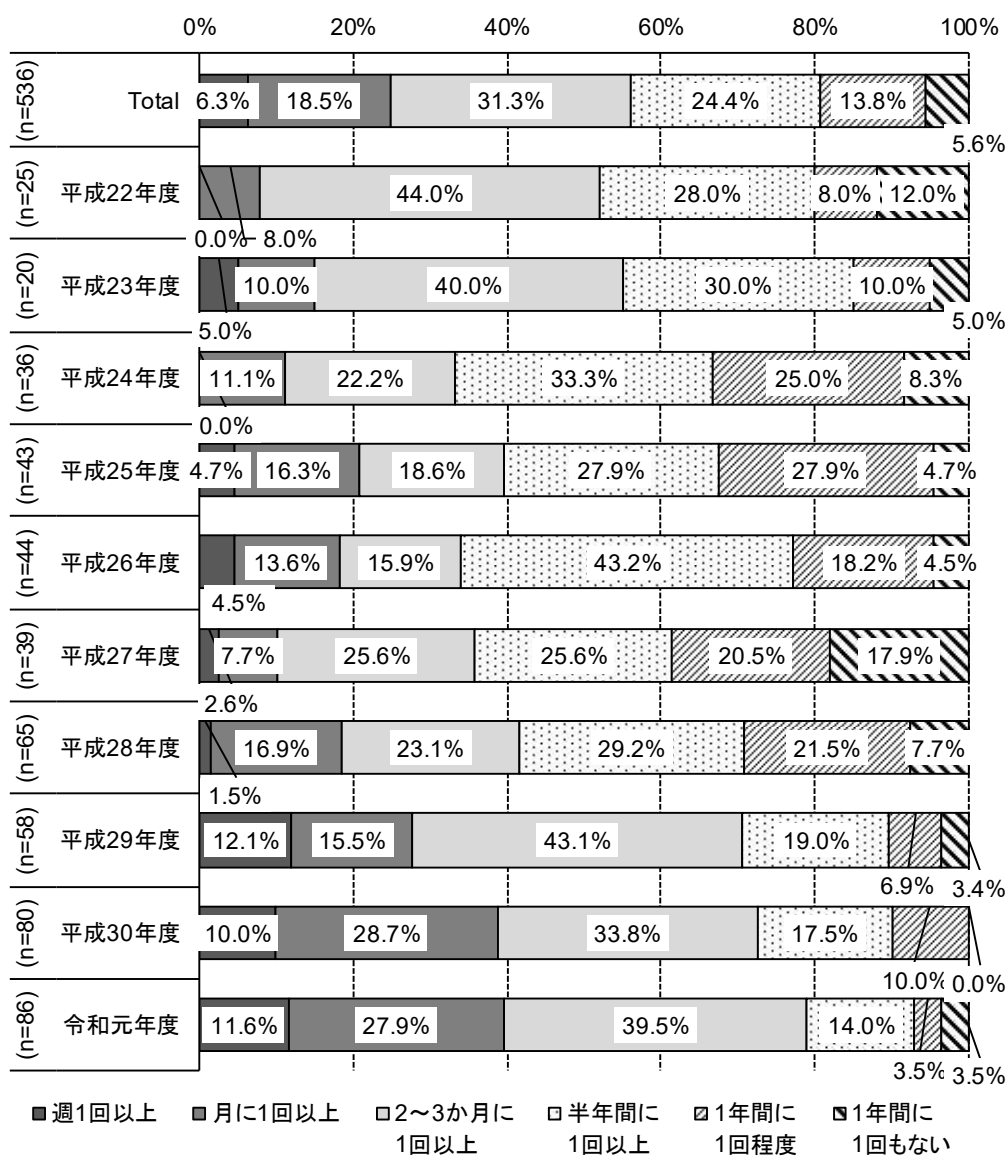


施設の種別別にみると、「児童養護施設」では「2～3か月に1回以上」が31.4%と最も割合が高くなっている。「自立援助ホーム」では「2～3か月に1回以上」が34.2%と最も割合が高くなっている。「里親」では「週1回以上」が36.4%と最も割合が高くなっている。

図表 113 直近1年間の施設等との連絡頻度（施設等の種別別）



図表 114 直近1年間の施設等との連絡頻度（退所年度別）

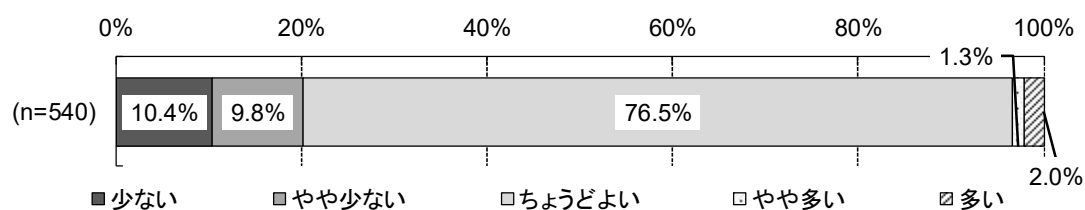


(2) 施設等からの連絡の充足感

① 連絡の充足感

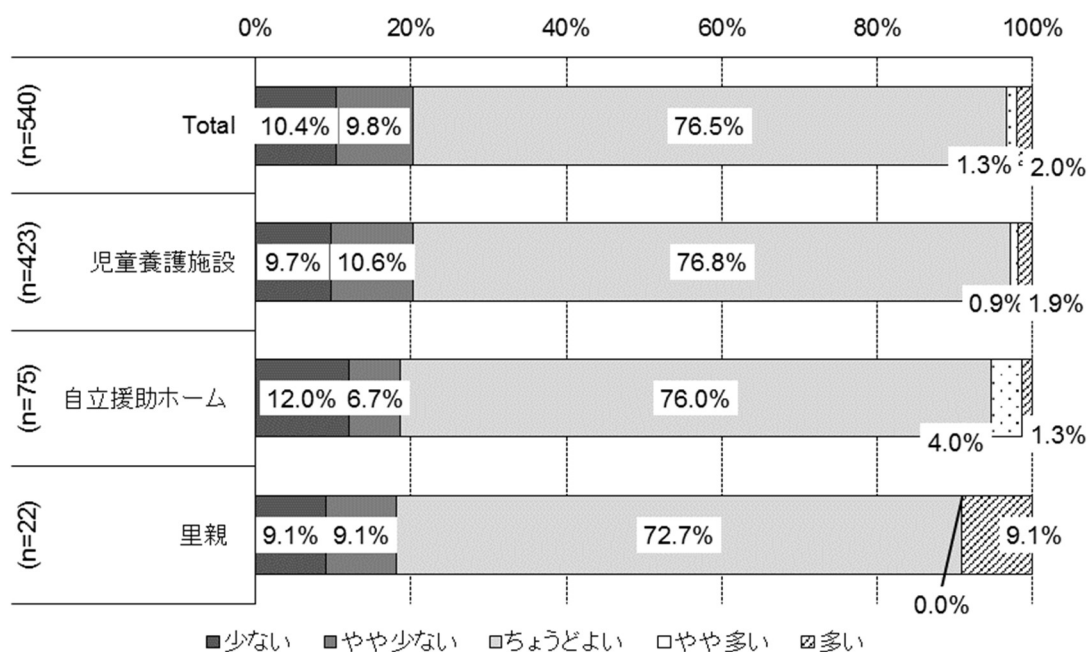
「ちょうどよい」の割合が最も高く 76.5%となっている。次いで、「少ない (10.4%)」、「やや少ない (9.8%)」となっている。

図表 115 連絡の充足度



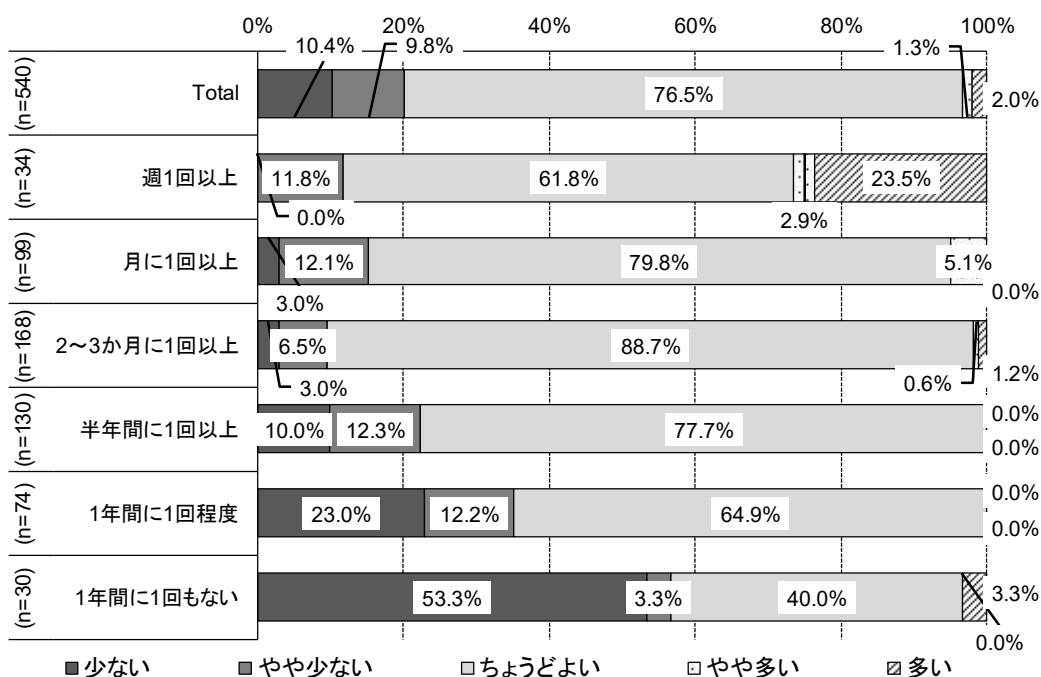
施設の種類の別に見ると、いずれの施設の種類の別においても、「ちょうどよい」が最も割合が高くなっている。

図表 116 連絡の充足度 (施設等の種類別)

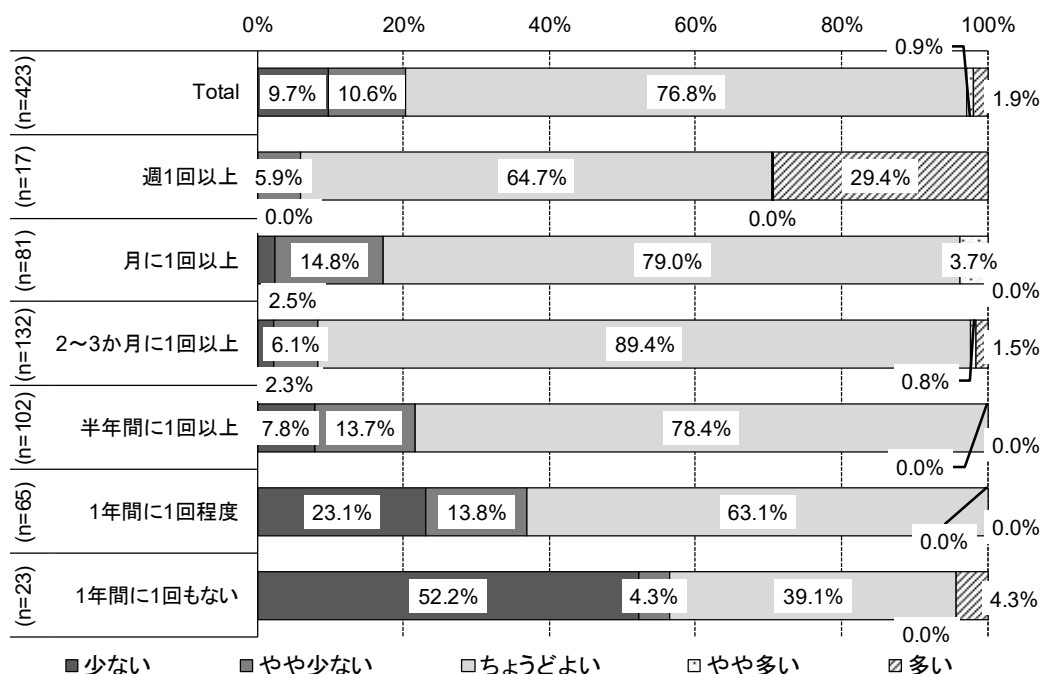


この1年間の施設等との連絡頻度別にみると、「週1回以上」「月に1回以上」「2～3か月に1回以上」「半年間に1回以上」「1年間に1回程度」ではいずれも「ちょうどよい」が最も割合が高くなっている。「1年間に1回もない」では「少ない」が53.3%と最も割合が高くなっている。

図表 117 連絡の充足度（連絡の頻度別）



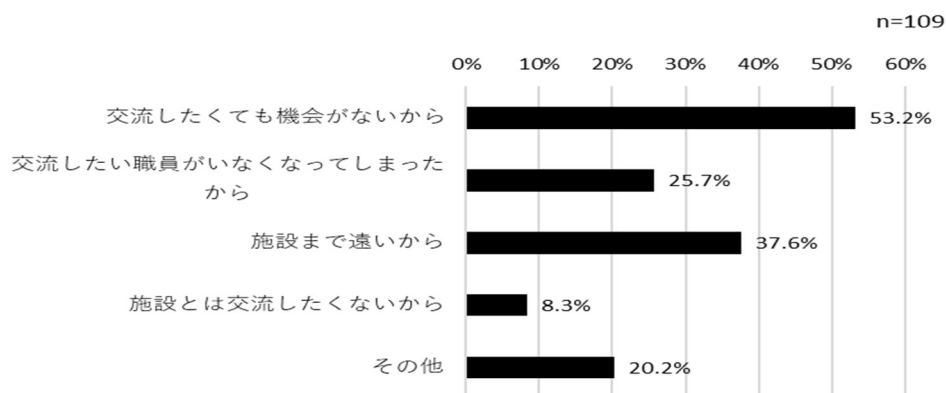
図表 118 連絡の充足度（連絡の頻度別）（児童養護施設のみ）



② 施設等との連絡頻度が少ない理由

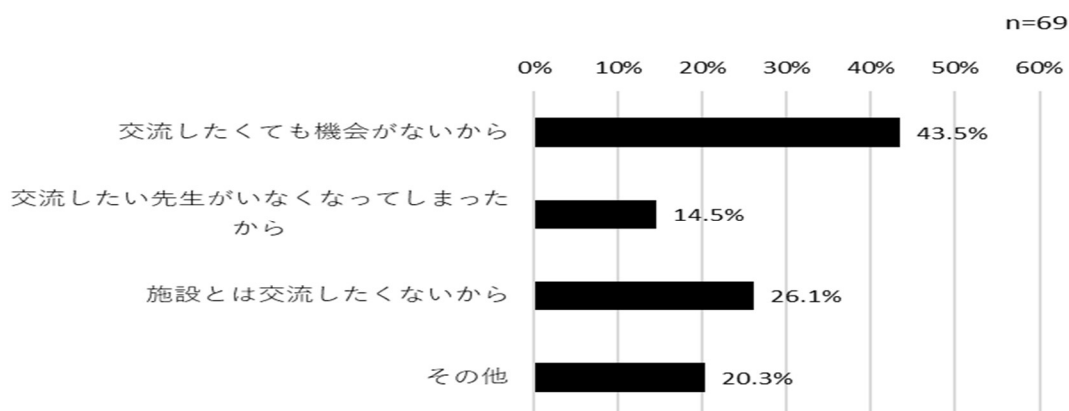
「交流したくても機会がないから」の割合が最も高く 53.2%となっている。次いで、「施設まで遠いから (37.6%)」、「交流したい職員がいなくなってしまったから (25.7%)」となっている。

図表 119 施設等との連絡頻度が少ない理由（連絡頻度が「少ない」「やや少ない」と回答した人）（複数回答）



(注)「その他」として、「話すことが特にないから」、「新型コロナウイルスの影響」、「職員の負担になるから」、「自立するように促されたから」、「連絡がこない」などが挙げられた。

図表 120 【参考】施設等との交流がない理由（複数回答）（平成 27 年度調査結果）

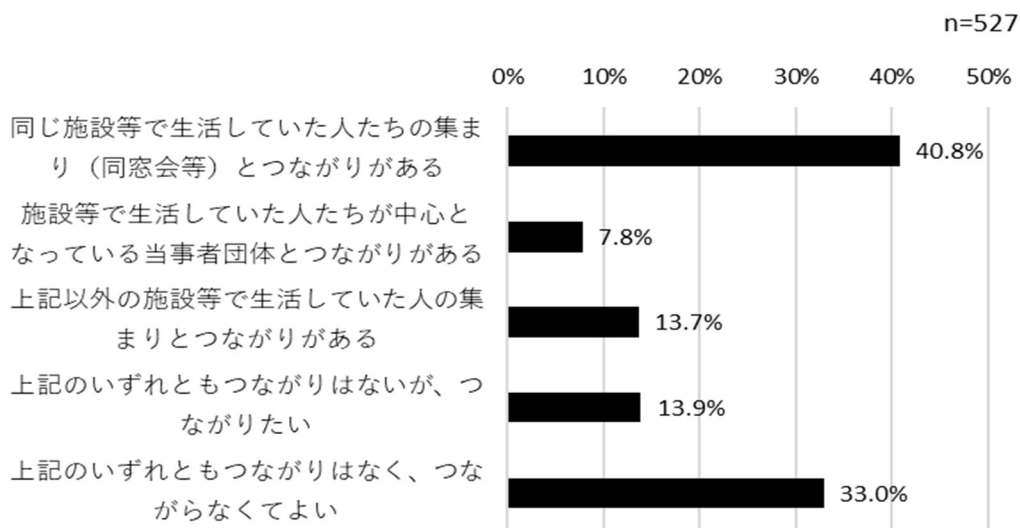


（注）前回調査では、施設等との交流がない人に対してたずねた。

（3）施設等で生活していた人たちの集まりや（当事者）団体とのつながり

「同じ施設等で生活していた人たちの集まり（同窓会等）とつながりがある」の割合が最も高く 40.8%となっている。次いで、「上記のいずれともつながりはなく、つながらなくてよい（33.0%）」、「上記のいずれともつながりはないが、つながりたい（13.9%）」となっている。

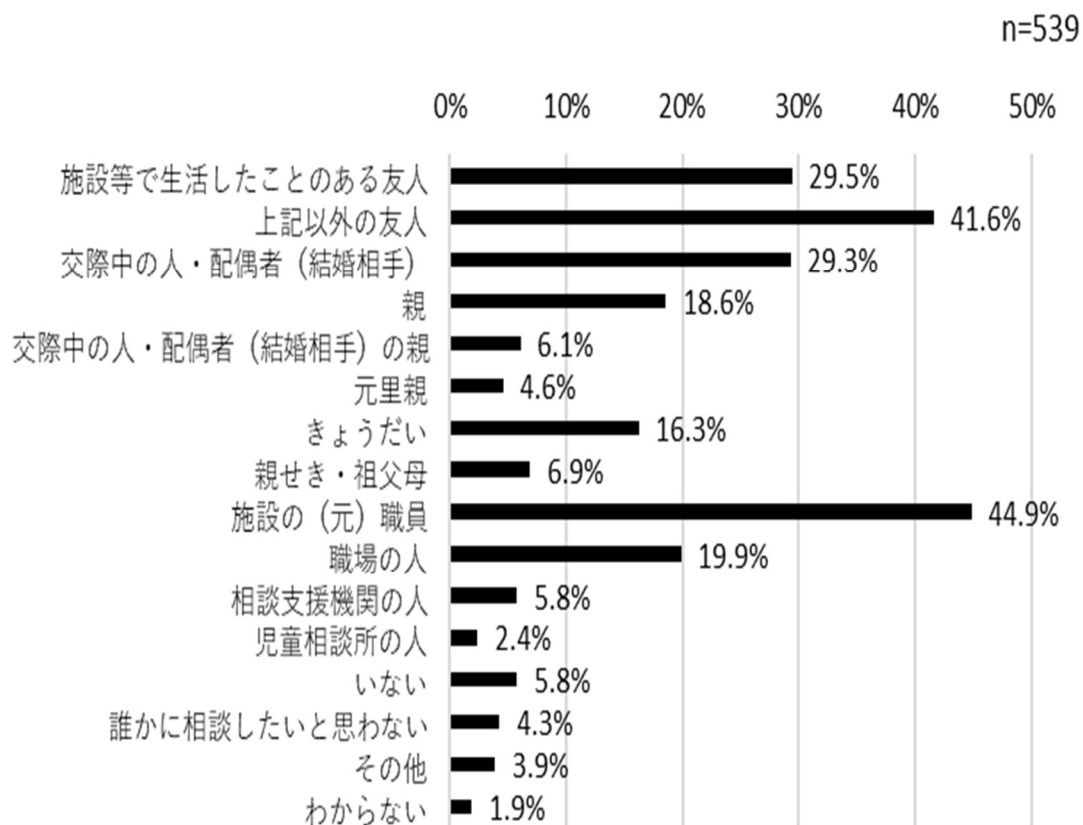
図表 121 施設等で生活していた人たちの集まりや（当事者）団体とのつながり（複数回答）



(4) 困った時の相談相手

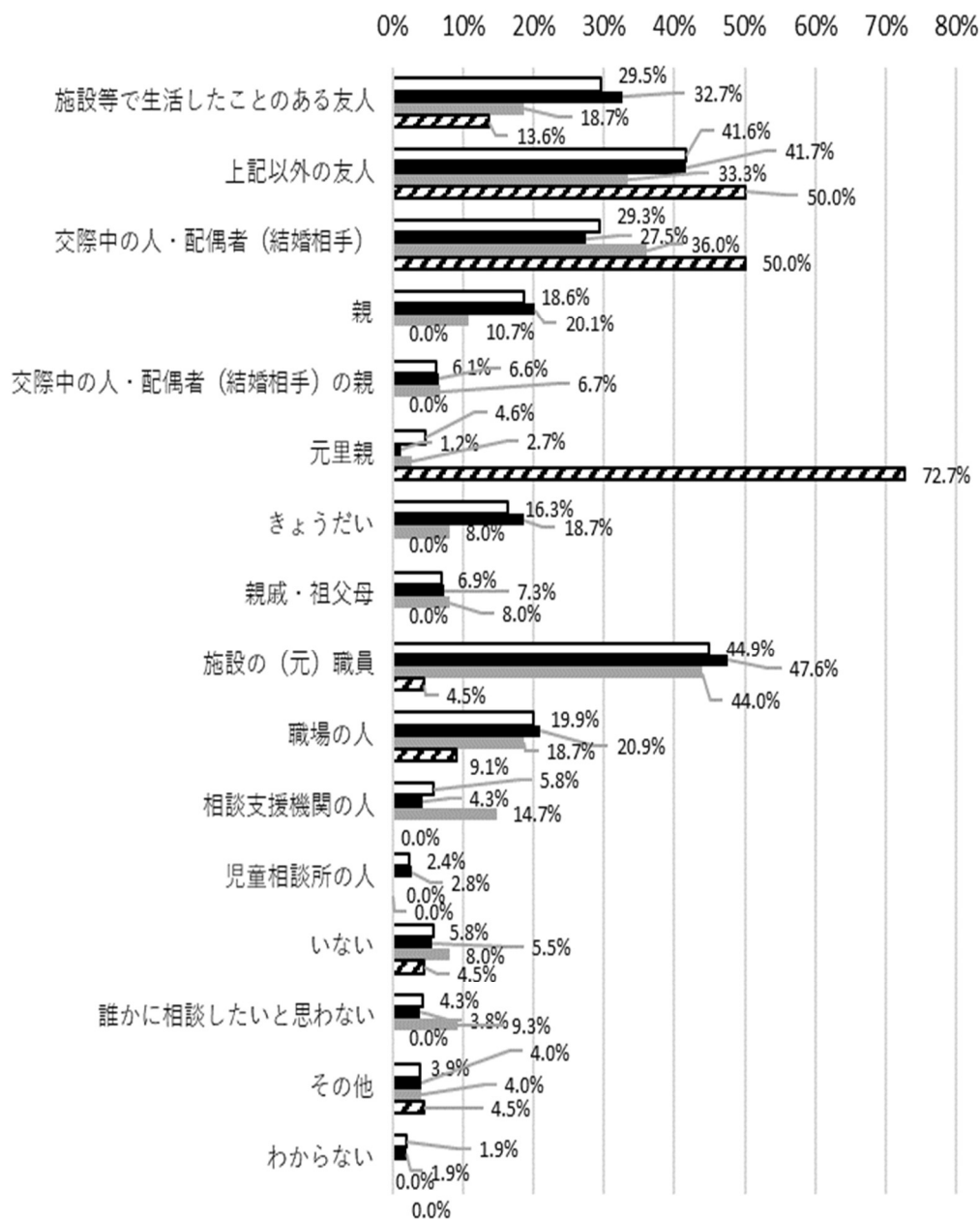
「施設の（元）職員」の割合が最も高く 44.9%となっている。次いで、「上記以外の友人（41.6%）」、「施設等で生活したことがある友人（29.5%）」となっている。

図表 122 困った時の相談相手（複数回答）



(注) 「その他」として、「医療機関の医師等」、「役所の職員」、「学生時代の恩師」、「近所の人」などが挙げられた。

図表 123 困った時の相談相手（複数回答）（施設等の種類別）



□ Total(n=539) ■ 児童養護施設(n=422) ■ 自立援助ホーム (n=75) ▨ 里親 (n=22)

図表 124 困った時の相談相手（複数回答）（退所年度別）

		施設等で生活したことがある友人	上記以外の友人	交際中の人・配偶者（結婚相手）	親	交際中の人・配偶者（結婚相手）の親	元里親	きょうだい	親せき・祖父母
(n=539)	Total	29.5%	41.6%	29.3%	18.6%	6.1%	4.6%	16.3%	6.9%
(n=25)	平成22年度	32.0%	52.0%	48.0%	16.0%	12.0%	4.0%	16.0%	4.0%
(n=20)	平成23年度	35.0%	50.0%	55.0%	10.0%	5.0%	0.0%	15.0%	15.0%
(n=37)	平成24年度	35.1%	35.1%	40.5%	16.2%	5.4%	0.0%	18.9%	2.7%
(n=43)	平成25年度	37.2%	37.2%	30.2%	9.3%	14.0%	4.7%	18.6%	9.3%
(n=44)	平成26年度	27.3%	52.3%	38.6%	34.1%	15.9%	6.8%	22.7%	2.3%
(n=39)	平成27年度	12.8%	30.8%	17.9%	15.4%	7.7%	2.6%	5.1%	0.0%
(n=65)	平成28年度	27.7%	43.1%	32.3%	30.8%	3.1%	3.1%	16.9%	6.2%
(n=58)	平成29年度	31.0%	46.6%	25.9%	17.2%	5.2%	8.6%	22.4%	10.3%
(n=81)	平成30年度	30.9%	39.5%	27.2%	22.2%	4.9%	3.7%	17.3%	7.4%
(n=87)	令和元年度	32.2%	41.4%	18.4%	11.5%	2.3%	5.7%	10.3%	8.0%

		施設の（元）職員	職場の人	相談支援機関の人	児童相談所の人	いない	誰かに相談したいと思わない	その他	わからない
(n=539)	Total	44.9%	19.9%	5.8%	2.4%	5.8%	4.3%	3.9%	1.9%
(n=25)	平成22年度	68.0%	20.0%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%	4.0%	0.0%
(n=20)	平成23年度	65.0%	35.0%	15.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	5.0%
(n=37)	平成24年度	51.4%	29.7%	2.7%	2.7%	5.4%	2.7%	2.7%	0.0%
(n=43)	平成25年度	39.5%	20.9%	9.3%	0.0%	4.7%	4.7%	4.7%	2.3%
(n=44)	平成26年度	43.2%	25.0%	6.8%	4.5%	2.3%	6.8%	4.5%	2.3%
(n=39)	平成27年度	33.3%	10.3%	0.0%	2.6%	10.3%	5.1%	2.6%	2.6%
(n=65)	平成28年度	40.0%	13.8%	6.2%	1.5%	6.2%	6.2%	4.6%	1.5%
(n=58)	平成29年度	46.6%	17.2%	8.6%	1.7%	1.7%	1.7%	3.4%	0.0%
(n=81)	平成30年度	49.4%	19.8%	3.7%	3.7%	7.4%	8.6%	4.9%	1.2%
(n=87)	令和元年度	42.5%	17.2%	5.7%	4.6%	4.6%	2.3%	4.6%	3.4%

図表 125 困った時の相談相手（複数回答）（退所年度別）（児童養護施設のみ）

		施設等で生活したことがある友人	上記以外の友人	交際中の人・配偶者（結婚相手）	親	交際中の人・配偶者（結婚相手）の親	元里親	きょうだい	親せき・祖父母
(n=422)	Total	32.7%	41.7%	27.5%	20.1%	6.6%	1.2%	18.7%	7.3%
(n=23)	平成22年度	30.4%	47.8%	47.8%	17.4%	13.0%	4.3%	17.4%	4.3%
(n=16)	平成23年度	37.5%	43.8%	62.5%	12.5%	6.3%	0.0%	12.5%	12.5%
(n=36)	平成24年度	36.1%	33.3%	41.7%	16.7%	5.6%	0.0%	19.4%	2.8%
(n=33)	平成25年度	42.4%	33.3%	30.3%	12.1%	15.2%	0.0%	21.2%	12.1%
(n=35)	平成26年度	31.4%	60.0%	37.1%	40.0%	20.0%	2.9%	25.7%	2.9%
(n=29)	平成27年度	10.3%	31.0%	6.9%	20.7%	6.9%	0.0%	6.9%	0.0%
(n=51)	平成28年度	35.3%	43.1%	31.4%	31.4%	3.9%	2.0%	17.6%	7.8%
(n=44)	平成29年度	36.4%	50.0%	18.2%	15.9%	4.5%	2.3%	29.5%	11.4%
(n=64)	平成30年度	34.4%	39.1%	21.9%	25.0%	4.7%	0.0%	20.3%	9.4%
(n=65)	令和元年度	32.3%	40.0%	13.8%	9.2%	1.5%	1.5%	10.8%	6.2%

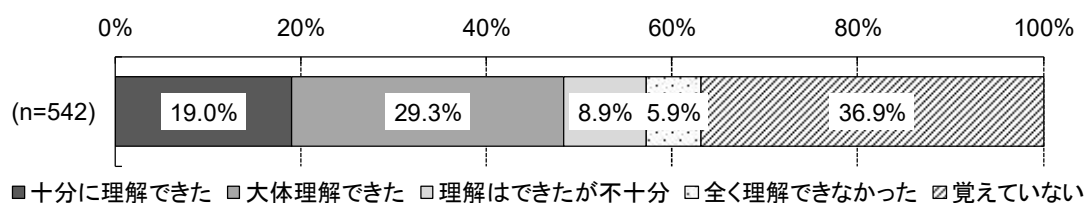
		施設の（元）職員	職場の人	相談支援機関の人	児童相談所の人	いない	誰かに相談したいと思わない	その他	わからない
(n=422)	Total	47.6%	20.9%	4.3%	2.8%	5.5%	3.8%	4.0%	1.9%
(n=23)	平成22年度	65.2%	17.4%	0.0%	0.0%	4.3%	0.0%	4.3%	0.0%
(n=16)	平成23年度	68.8%	31.3%	12.5%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	6.3%
(n=36)	平成24年度	52.8%	30.6%	2.8%	2.8%	5.6%	2.8%	2.8%	0.0%
(n=33)	平成25年度	39.4%	24.2%	3.0%	0.0%	6.1%	3.0%	6.1%	3.0%
(n=35)	平成26年度	48.6%	28.6%	2.9%	5.7%	2.9%	2.9%	2.9%	2.9%
(n=29)	平成27年度	27.6%	13.8%	0.0%	3.4%	13.8%	3.4%	3.4%	3.4%
(n=51)	平成28年度	41.2%	15.7%	2.0%	2.0%	5.9%	7.8%	3.9%	2.0%
(n=44)	平成29年度	50.0%	18.2%	9.1%	2.3%	2.3%	2.3%	2.3%	0.0%
(n=64)	平成30年度	50.0%	20.3%	3.1%	4.7%	4.7%	9.4%	4.7%	1.6%
(n=65)	令和元年度	49.2%	15.4%	4.6%	4.6%	4.6%	1.5%	6.2%	3.1%

6. 施設等から受けた支援の状況

(1) 入所の際に児童相談所や施設からの説明は十分に理解できたか

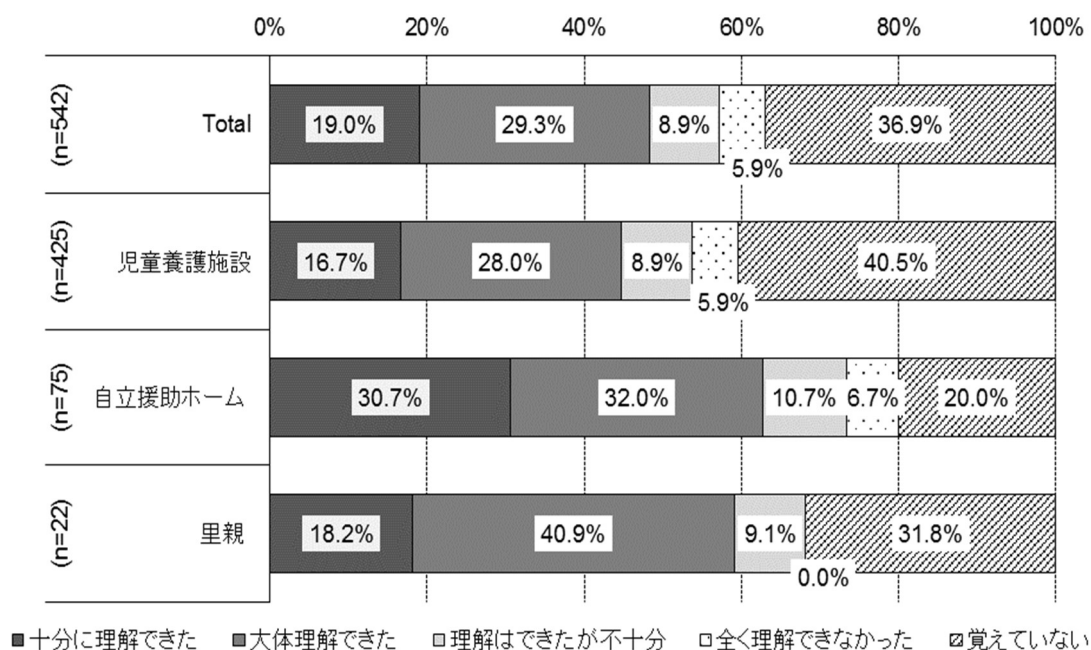
「覚えていない」の割合が最も高く 36.9%となっている。次いで、「大体理解できた (29.3%)」、「十分に理解できた (19.0%)」となっている。

図表 126 入所の際に児童相談所や施設からの説明は十分に理解できたか



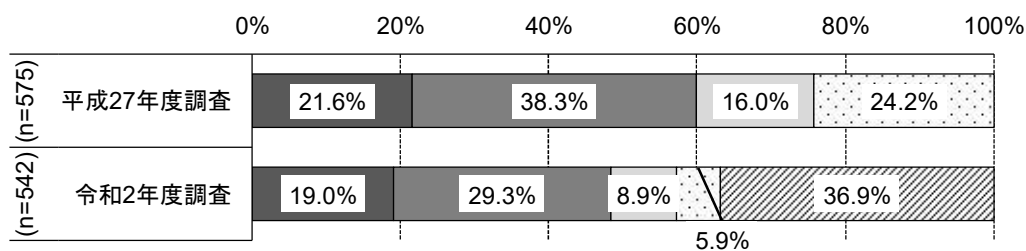
施設の種別別にみると、「児童養護施設」では「覚えていない」が 40.5%と最も割合が高くなっている。「自立援助ホーム」では「大体理解できた」が 32.0%と最も割合が高くなっている。「里親」では「大体理解できた」が 40.9%と最も割合が高くなっている。

図表 127 入所の際に児童相談所や施設からの説明は十分に理解できたか
(施設等の種別別)



前回調査と比較すると、「理解できたが不十分（8.9%）」と「全く理解できなかった（5.9%）」を合わせた割合は14.8%で25.4ポイント減少している。

**図表 128 入所の際に児童相談所や施設からの説明は十分に理解できたか
（前回調査との比較）**

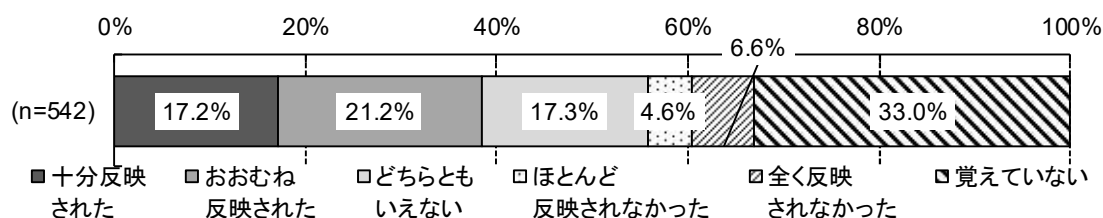


■十分に理解できた ■大体理解できた □理解できたが不十分 □全く理解できなかった □覚えていない
 (注) 今回調査では、「覚えていない」を追加したずねた。

(2) 入所の際に気持ち・意向は反映されたか

「覚えていない」の割合が最も高く33.0%となっている。次いで、「おおむね反映された（21.2%）」、「どちらともいえない（17.3%）」となっている。

図表 129 入所の際に気持ち・意向は反映されたか



施設の種類別にみると、「児童養護施設」では「覚えていない」が36.9%と最も割合が高くなっている。「自立援助ホーム」では「おおむね反映された」が29.3%と最も割合が高くなっている。「里親」では「おおむね反映された」が40.9%と最も割合が高くなっている。